三重県の文化財保護

—昭和58年度—

1984.3

三重県教育委員会

例　　言

1．本書は、三重県教育委員会が昭和58年度に実施した指定文化財等の保存事業を中心にまとめたものである。

2．国指定史跡斎宮跡及び埋蔵文化財の保護事業については、それぞれ年報を刊行しているので参照されたい。

3．資料のうち、1．文化財愛護強調週間行事　2．文化財防火デー行事については、市町村教育委員会からの報告をまとめたものであり、3．指定文化財管理調査については該当する市町村教育委員会の協力を得て実施した調査をまとめたものである。

目　　次

Ⅰ．文化財の緊急調査
　1．歴史の道調査……1
　2．方言収集緊急調査……2

Ⅱ．文化財の指定
　1．県新指定の文化財……3
　2．県指定解除の文化財……3
　3．各市町村新指定の文化財……3

Ⅲ．文化財パトロール事業……4
　1．事業の概要……4
　2．巡視報告……4

Ⅳ．国指定文化財の保護
　1．緊急調査……5
　2．保存修理……5
　3．指定文化財管理……6
　4．防災施設……6
　5．無形文化財等の伝承……6
　6．史跡の公有化……6
　7．特別天然記念物保護……6

Ⅴ．県指定文化財の保護
　1．保存修理……7

Ⅵ．文化財愛護地域活動……8
　1．漁村の秀れた習俗の伝承と伝統芸能の後継者の養成について…8
　2．文化財愛護強調週間行事……13
　3．文化財防火デー行事……14

資　料
　1．国・県指定文化財管理実態調査…21
　2．県新指定文化財調査報告……27
　3．文化財調査報告書一覧……34
　4．文化財講習会……36

Ⅰ　文化財の緊急調査　※印は、国庫補助事業

1．歴史の道調査―巡見道・菰野道・八風道・美濃街道―※

ここ数年来の道路改良事業、各種農業基盤整備等によって失なわれつつある古道をはじめ交通関係の遺跡等を、「歴史の道」として古道及び関連遺跡を周囲の環境を含めて総合的かつ体系的に把握するもので、昭和55年度から5か年計画で進め、昭和58年度で4年目を終了、調査した街道は13街道となった。

本年度の調査は、昭和58年度歴史の道（巡見道・菰野道・八風道・美濃街道）調査実施要項にもとづいて4街道の現状調査を行った。調査の結果は、個々の道標・常夜燈・街道沿線の各種文化財等について調査票と写真カードを作成し、街道全体については、三重県側から外に向って記述し報告書としてまとめた。街道の現地調査と現状記述は、市町村毎に次の各調査員に分担していただいた。なお、調査結果は「歴史の道調査報告書Ⅳ」としてまとめている。

（調査指導）

樋田　清砂	県文化財保護審議会委員	（総括指導）
平松　令三	〃	（文 化 財）
仲見　秀雄	〃	（文献指導）
藤本　利治	皇学館大学教授	（歴史地理）
久保　文武	奈良大学講師	（文献指導）

（調査担当）

伊東　春夫	多度町文化財調査会委員	（多 度 町）
西羽　　晃	桑名市文化財保護審議会委員	（桑 名 市）
山口　一成	神田小学校教諭	（東 員 町）
民上真由美	員弁西小学校教諭	（員 弁 町）
太田栄太郎	北勢町町会議員	（北 勢 町）
藤井　樹已	藤原町文化財調査委員	（藤 原 町）
岩花　李弌	大安町史編纂委員	（大 安 町）
平田　　昂	羽津小学校教諭	（四日市市）
水谷　謙吉	橋北地区市民センター副館長	（　〃　）
安田日出麿	大矢知興譲小学校教頭	（　〃　）
佐々木　一	菰野町郷土資料館長	（菰 野 町）
飯田　良一	神戸高等学校教諭	（三 重 郡）
山路　浩一	四日市西高等学校教諭	（四日市市）
名村　雨人	郷土史研究家	（鈴 鹿 市）
村山　邦彦	鈴鹿市立図書館	（　〃　）
原　　喜一	亀山市文化財専門委員	（亀 山 市）
坂　　義昌	亀山郷土史研究会委員	（　〃　）
安川　富春	亀山中部中学校教諭	（　〃　）

（関係市町村教育委員会）

桑名市教育委員会	
四日市市	〃
鈴鹿市	〃
亀山市	〃
多度町	〃
北勢町	〃
員弁町	〃
大安町	〃
東員町	〃
藤原町	〃
菰野町	〃

（関係教育事務所）

北勢教育事務所

〈参考〉

調査済街道一覧

- 昭和55年度　熊野街道
- 昭和56年度　和歌山街道
  - 伊勢本街道
  - 長谷街道
- 昭和57年度　伊賀街道
  - 大和街道
  - 伊勢別街道

2．方言収集緊急調査―第３年次―※

近年、生活文化の画一化、標準化が急激に進み、日常使用する言葉も例外ではなく、古い生活文化の姿を残す貴重な方言も急速に失なわれつつある。このため、各地に残る貴重な方言を緊急に調査し収集記録して後世に保存するため、昭和56年度から３か年計画で実施、昭和58年度で終了した。

（調査方法）

・きめられたテーマで話者が話すのを10時間分録音する。

・10時間の録音のうち適切な部分３時間分を文字化する。

・文字化部分を標準語と併記し、更に方言特性の考察等を加えて記録を作成。

（記録収集地区）

・伊勢地区　安芸郡美里村北長野

・伊賀地区　阿山郡阿山町馬田

・志摩地区　志摩郡阿児町立神

・北牟婁地区　北牟婁郡海山町白浦

・南牟婁地区　南牟婁郡御浜町阿田和

（調査員）

（伊　勢）　丹保　健一　三重大学教育学部助教授　馬杉　宗伸　県立城山養護学校教諭

（伊　賀）　巌佐　正三　三重大学名誉教授　森田　貞子

（志　摩）　尾崎亥之生　磯部中学校教諭　浦谷　広己　阿児町教育委員会社会教育指導員

（北牟婁）　中野　朝生　尾鷲教育事務所指導主事　東　成志　県立稲葉養護学校教諭

（南牟婁）　神田　学　新宮高等学校教諭　吉井　準　熊野工業高等専門学校助教授

（関係市町村教育委員会）

美里村、阿山町、阿児町、海山町、御浜町の各教育委員会

（関係教育事務所）

中勢、上野、南勢志摩、尾鷲、熊野の各教育事務所

（３か年間の収録内容）

年　度	調　査　内　容	文字化時間
昭和56年度	①　老年層の男女各１人による対話、又は男女を含む３人の会話 ②　老年層の男性２人の対話、又は老年層の男性３人の会話	２時間 １　〃
〃　57　〃	①　目上の者と目下の者の会話（男性２人） ②　老年層の女性２人の対話、又は老年層の女性３人の会話	２　〃 １　〃
〃　58　〃	①　老年層と若年層との対話 ②　場面設定の会話 ③　民話（又は老年層の男性（目上）と老年層の女性(目下)の対話	１　〃 １　〃 １　〃

（調査結果）

調査結果の収録テープと文字化部分については、文化庁に報告するとともに、県教育委員会に保管する。

II　文化財の指定

1．県新指定の文化財

種別		名　　称	員数	時代	所　在　地	所有者・管理者	指定年月日
有	彫	宇流冨志禰神社 能狂言面	44面	室～江	名張市平尾3322番地	宇流冨志禰神社	昭59．3．27
	典	紙本墨書類聚名義抄 （蓮成院本）	3冊	鎌	桑名市吉之丸9番地	鎮国守国神社	〃

2．県指定解除の文化財

種別		名　　称	指定年月日	所　在　地	所有者・管理者	解除年月日
有	絵	絹本著色不動明王像	昭27．3．13	度会郡玉城町東原	国　東　寺	昭59．3．27
記	史	桑名立教館跡	昭16．12．2	桑名市伊賀町1822　他	伊　賀　町	〃
	〃	桑名市伝馬町貝塚	昭17．1．22	桑名市伝馬町2310　他	桑　名　市　他	〃
	天	御厩の松	昭54．3．23	鈴鹿郡関町古厩字宝路121	古　厩　区	〃

3．市町村新指定の文化財

種別		名　　称	員数	時代	所　在　地	所有者・管理者	指定年月日

四日市市

有	建	旧四日市市役所四郷出張所（四郷村役場）	1　棟		西日野町字野中3374－3他	四日市市	昭57．2．16
記	天	桜町シデコブシ群落			桜町神平5686－1他	坂井つたえ、坂井はじめ	〃

員弁町

記	史	北金井城跡			北金井字亀谷	種村敬章　他	昭58．2．14
	〃	岡1号墳			東一色字岡山2035	和波久敬	〃
	天	槇　ノ　木			畑新田175	位田徳郎	〃

藤原町

民	無	坂本の曳山囃子			坂本地区	坂　本　区	昭58．5．21
	〃	下野尻春日神社奉納獅子舞			下野尻951	下野尻春日神社獅子舞保存会	〃

長島町

有	建	旧長島城大手門	1　棟	江	又木77－3	蓮　生　寺	昭58．12．10
	彫	木造阿弥陀如来立像	1　軀	藤	平方593	阿弥陀寺	〃
	〃	木造十一面観音立像	〃	室	〃	〃	〃

桑名市

有	典	翠関雑記	2　帙（4冊）	江	東鍋屋町29	不破正人	昭58．9．13

Ⅲ　文化財パトロール事業

1．事業の概要

三重県下の指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地を巡視し、常時、文化財の管理、保存状況を把握し、適切な処置を講じて文化財の保護の万全を期することを目的として、各教育事務所毎に文化財調査員を任命し調査活動を行っている。

建造物、天然記念物の巡視・保護管理指導には、57年度からチェックポイントカードにより調査の徹底をはかっている。

2．巡視報告（天然記念物・名勝）

名　　称	所在地	点　検　結　果
東阿倉川イヌナシ自生地	四日市市	雑草はあるが、特に影響なし
西阿倉川アイナシ自生地	〃	手入れ良、周囲の樹木の枝打ち要
御池沼沢植物群落	〃	強害草の侵入目立つ
桑名の大イブキ	桑名市	かこいがほしいとの希望あり 3枝切断
奥郷の寒椿	菰野町	特になし
美鹿の神明杉	多度町	説明板等が不足
多度のイヌナシ自生地	〃	〃
ア　イ　ナ　シ	鈴鹿市	特になし
西の城戸のヒイラギ	〃	上部枯死、至急専門家の調査要
白子不断桜	〃	説明板等が不足
金生水沼沢植物群落	〃	〃
川俣神社のスダジイ	〃	〃
石薬師の蒲ザクラ	〃	〃
長太の大クス	〃	枝の繁りが少なく葉も少ない
宗英寺のイチョウ	亀山市	説明板等が不足
鈴鹿山の鏡肌	関　町	〃
貝　石　山	久居市	特になし
真福院のケヤキ	美杉村	標柱・説明板がほしい
国津神社のケヤキ	〃	ワイヤーにより補強されている
東平寺のシイノキ樹叢	〃	特になし
矢頭の大杉	一志町	石柱のクサリが3か所はずれている
長徳寺の龍王ザクラ	芸濃町	特になし
椋本の大ムク	〃	〃
斎宮のハナショウブ群落	明和町	強害草の侵入目立つ、除草要
栃ヶ池湿地植物群落	多気町	農用汚水のため枯死増加
西村宏林宅趾のフウ樹	〃	落葉被害多し
不動院ムカデラン群落	松阪市	シダ類増加、説明板が必要
水屋の大クス	飯南町	特になし

名　　称	所在地	点　検　結　果
大杉谷の大杉	宮川村	説明板、案内板が必要
宗林寺のシダレザクラ	大台町	58年7月、枯死のため伐採
島勝神社樹叢	海山町	ようやく復旧したといえる
豊浦神社樹叢	紀伊長島町	特になし
風蘭自生地	〃	〃
九木神社樹叢	尾鷲市	〃
飛鳥神社樹叢	〃	〃
法念寺鉄魚	〃	〃
九鬼崎樹叢	〃	〃
尾鷲神社大楠	〃	〃
徳司神社々叢	熊野市	現状変更

上記調査担当者

地区	氏　名	所　　属
北勢	桐生　定己	四日市市常盤中学校教諭
中勢	津村　善博	一志郡嬉野町中郷小学校教諭
松阪	三井　博之	飯南町粥見中学校教諭
	河合　　明	県立松阪工業高等学校教諭
尾鷲	伊藤　　良	尾鷲市・団体役員
	湊　　章治	県立長島高等学校教頭
熊野	嶋　　正央	熊野市文化財調査委員
	田中　安弘	熊野市遊木小学校教諭

Ⅳ　国指定文化財の保護 ―国庫補助・県費補助事業―

1．緊急調査

(1)　天然記念物　**金生水沼沢植物群落**（鈴鹿市）

金生水沼沢植物群落は、周囲の環境の変化と地下水位の低下に起因すると考えられる湿原の乾性化から沼沢植物群落の減少が著しく、絶滅の恐れがあるため、本年度はその原因をさぐるため、地形測量図の作成と生態調査、メッシュによる植性調査、年間を通しての水質、水量調査、今後の水位保全のためのボーリングによる地質調査を実施した。

2．保存修理

(1)　有形文化財（建造物）**専修寺如来堂**（津市　専修寺）

真宗高田派本山専修寺如来堂は、軒先の不陸、屋根全面のいたみ、縁板の腐れ等が目立ってきているため、昭和57年度より保存修理事業に入り、本年度は、保存小屋移設、屋根塀及び便所の解体とともに、建物全体をおおう素屋根の古鋼材の購入と搬入等を行った。

(2)　有形文化財（書籍）**本居宣長稿本類並関係資料**（松阪市　鈴屋遺跡保存会）

本居宣長自筆稿本類は破損、欠損、虫蝕等がひどく、このため昭和56年度より４か年計画で保存修理に入り三年次の本年度は、関係資料111種のうち、古書類聚抄、鈴屋百首歌等119点について、綴じの解装、虫穴補修、表紙、見返し等の補修等を行った。

(3)　史跡　**上野城跡**（上野市）

上野城跡の石垣を含めた城郭景観はその歴史的重要性を示す貴重なものであるが、構築後約 400年を経て、随所に石垣のはらみ、波打ちが生じて崩壊の危機にさらされているため、昭和55年度から４か年計画で築城当時の姿に復元する工事をすすめ、本年度は、前年度に引き続いて約 234㎡にわたって石積み解体と積み替え工事を行った。

(4)　史跡　**正法寺山荘跡**（関町）

昭和52年以来山荘跡の建築遺構の確認調査をすすめ、発掘調査の進捗状況に応じて整備事業を実施、発掘調査については北東隅 730㎡を行い、東西に蛇行する幅20cmほどの溝とこれと直交して南へ延びる石垣及び井戸を検出した。

(5)　史跡　**水池土器製作遺跡**（明和町）

奈良時代の土師器焼成坑が初めて検出され、斎宮跡との関連を考える上で貴重な遺跡としてその活用をはかるため本年度は、給水工事、説明板、標柱、標示板の設置並びに土器焼成坑跡の平面表示11か所、井戸跡の復元等を行った。

3．指定文化財管理

(1) 有形文化財（建造物）**大村神社宝殿**（青山町）

大村神社宝殿は、屋根の腐食が著しく、昭和57年度から2年計画で保存修理を実施、本年度は前年度に引き続いて野地の補強と桧皮葺で仕方げ、保存をはかった。

4．防災施設

(1) 有形文化財（建造物）**専修寺御影堂**他（津市　専修寺）

真宗高田派本山専修寺は、国宝2件を始めとする多数の重要文化財を有しながら、火災等に対する設備が不充分なため、昭和57年度から7か年計画で重要文化財御影堂を中心とした防災施設の建設に入り、本年度は、蓮池採水槽、消火栓用配管、一部自動火災報知器設置等を行った。

(2) 有形文化財（建造物）**金剛証寺本堂**（伊勢市　金剛証寺）

金剛証寺本堂は、重要文化財（建造物）に対する防災が不備なため、昭和57年度から2か年計画で防災工事に着手、前年度は配管工事、本年度はジーゼルエンジンポンプ及び放水銃5基を設置し完了した。

5．無形文化財等の伝承

(1) 無形文化財　**伊勢型紙**（鈴鹿市）

鈴鹿の伊勢型紙の技術保持者の指導のもとに、中堅技術者を対象とし伝承者の養成及び資料の収集に努めるもので、無形文化財技術保持者を中心に伝承者養成委員会を組織し、道具彫、突彫、錐彫、縞彫、糸入れの種目毎に復利刻作品の製作を行った。

(2) 無形民俗文化財　**安乗人形芝居**（阿児町）

安乗人形芝居は 400年の伝統をもち、毎年旧暦8月14、15日に公開されているが、伝承者養成と舞台の修復、資料整備が急務となり、昭和56年度から計画的に進められ、本年度は、8か月間にわたって資料の発掘、伝承の経緯を採収、資料をまとめるとともに、人形類の補修を行い、公開事業の円滑な運営をはかった。

6．史跡の公有化

(1) 史跡　**宝塚古墳**（松阪市）

松阪市土地開発公社が先行取得した追加指定地 11156.4㎡を5か年計画で公有化するもので、本年度は5年次にあたり、公有化を完了した。

7．特別天然記念物カモシカ保護

特別天然記念物カモシカは、昭和39年に県民獣にもなっているが、近年、人工造林地の幼齢木に対するカモシカの食害が増加し社会問題となってきている。このため環境庁、林野庁、文化庁の三庁合意にもとづいて生息地指定へ移行するための経過措置として保護地域設定が進められ、県内では鈴鹿山系が設定を終り、大台山系では意見集約中であり、食害防止対策として次のような防護柵設置を行った。

宮川村滝谷ほか	16か所	12,596m	飯高町栃谷ほか	4か所	3,802m
海山町相賀ほか	5か所	3,903m	尾鷲市南浦ほか	9か所	3,410m

V　県指定文化財の保護 ―県費補助事業―

1．保存修理

(1)　有形文化財（建造物）**旧小田小学校**（上野市）

明治14年に小田村に啓迪学校として建築された本建築は、窓に色彩豊かなギヤマンを、またベランダ付玄関等をもつ木造２階建ての洋風建築の代表的なものであるが、屋根の老朽化が著しく雨漏り等もあり、屋根の全面葺き替えを実施した。尚、葺き替えの際、太鼓楼の跡と思われる遺構が発見され、建築当時の様式等を知る上で貴重な資料を得ることができた。

(2)　史跡　**名張藤堂家邸趾**（名張市）

名張藤堂家邸趾は、北側屋根の交錯する部分が落ち込み腐食が進行しているため、昭和57年から３か年計画で保存修理を開始。本年は２年次で、腐食の進行の著しい北西側に位置する１棟を解体し、洗面所、湯沸室、便所等に改築し、保存のための修理した。

(3)　史跡　**専修寺庭園安楽庵**（津市　専修寺）

高田本山専修寺庭園は境内の北隅にあり、池の西には江戸前期に建てられた茅葺の茶席安楽庵があるが茅葺のため屋根を始め腐朽が進んでいたため、腐朽の著しいところは半解体し、屋根の葺替え等を含めて保存修理を実施した。

（参考）　**修理を要する有形文化財、有形民俗文化財一覧表**

※昭58．10．28付の依頼（管理実態調査）に対する各市町村教育委員会の報告による。

種別 ＼ 関係市町村名			桑名市	北勢町	大安町	四日市市	鈴鹿市	関町	津市	松阪市	多気町	明和町	勢和村	伊勢市	度会町	鳥羽市	志摩町	上野市	名張市	島ヶ原村	阿山町	計
国指定	建造物							1						1		2		1		2		7
	美術工芸	絵画							1													1
		彫刻									1							2				3
		工芸					1									1			1			3
県指定	建造物												1									1
	美術工芸	絵画	1		1	3								1		1	1	1				9
		彫刻		1	1	1	3							1				1		4	1	13
		工芸	1				1		1													3
	書跡					1				2		2		1								6
	有形民俗文化財					1			1						1		1					4
計			2	1	2	6	5	1	3	2	1	2	1	4	1	4	2	5	1	6	1	50

Ⅵ　文化財愛護地域活動

1．漁村の秀れた習俗の伝承と伝統芸能の後継者の養成について

三重県度会郡南勢町教育委員会

実践研究の場の地域特性

三重県度会郡南勢町は、伊勢志摩国立公園の中にあって、漁業中心の町である。特に、本研究の対象とした南海地区は、遠洋漁業と沿岸漁業とを生業として住民のすべてが、何らかのかたちで漁業とかかわりをもって、集落を形成してきたところである。

そのため、漁業に関連した祭りや習慣などが数多く残され、受けつがれてきた。しかし、若い年齢層の他町への流出や、生活様式の急変による継承の困難さなどが原因となって、正統的な継承も、伝統芸能の後継者の養成も非常にむつかしく、困難な状態である。

南勢町の中でも南海地区は、八柱系の神事が古い形で残る唯一の地区であり、漁業――漁撈とともに生きてきた人びとの歴史を、祭りを通してうかがうことができる。

また、盆おどり行事のさかんな地区である。地域独特の盆おどり唄も残り、戦前は1週間連続で夜明けまでおどりあかすほどの地区であり、相賀浦には、「相賀の子守唄」という作業唄のほか、江戸時代の盆おどりの型を残す、「江島おどり」があった。

実践研究の当初のねらいと研究事項

南勢町の南海地区における八柱系の神祭と付随する行事等の記録保存とともに、後継者の養成により正確な保存と伝承をめざす。

海に関係のある、3つの祭りをとりあげ、若年齢層の人びとに継承させることと、スライドやビデオなどで祭りの現況を記録し、今後の伝承についての問題点を考察した。また、伝承活動の第一歩として、古くから伝わってきていた伝統芸能の復活と、その伝承について実践活動をおこなった。

(1)　6月…浅間祭り(礫浦)、　7月…丸島祭り(迫間浦)、および
　　11月…氏神祭り(相賀浦)の調査と記録
(2)　江島おどりの復活と伝承の実践活動

調査研究と伝承の実践活動

(1)　海の祭りの調査

㋐ 礫浦の浅間祭り

㋐－1　祭りの概要と変化

礫浦における共同祭祀のひとつである浅間信仰は古くから伝わるが、昭和30年代(町村合併のころ)と比べると、若年齢層の減少や祭り自体への地区民の考え方の変化(ある意味では信仰心の変化)などによって大幅な簡略化が見られる。

浅間祭りは、旧暦5月28日におこなわれ、当地区においては、2本の笹竹を用意する。当該地区内には竹やぶがないので、他地区から入手する(古くは舟で運んだ)。村中から、世話役のところへ「おはけ」を持ってくる。祭りの費用を出しあうのである。1戸1,000円から500円ぐらい。昭和20年代までは、半紙に包んで持ってきた。その半紙を三角形に折り、束にして2本の笹竹の上端を割ってはさむ。昭和30年ごろからは、のし袋に入れて持ってくるので、逆に半紙を買うことになった。

笹竹は浅間山にかつぎあげ、頂上の大木にくくりつけ、1年間そのままにしておく。竹にはさんでくくりつけられたおはけの半紙は、森をつきぬけて中空にさらされ、海上からも眺められる。これは沖で漁をする人の目じるしになる。

山へ登って参詣する者は、必ず洗米とせんげん花を持って行く。せんげん花といっているのは、フジナデシコのことである。登山の前に浜で丸い石ころを拾い、それも持ってゆく。これを供えると体の厄病がなくなるといわれている。

6人の男が水ごり(海の中に入る)をして笹を持って登る。講がなくなってしまってから、水ごりをする者が少なくなってしまい、このままでは廃絶のおそれがあるので、村の若者の中から6人を選んで、その作法の伝承をおこなった。

講があった昭和20年代までは、この地区では、3日前から昼夜1回ずつ水ごりをしたが、現在は、山に登る前に1回だけ、それを行うように簡略化されてしまっている。漁業も、漁撈から養殖へと変化してゆく中で、3日も祭りにかかわる時間的な余裕がなくなってしまったことも、簡略化の原因であるといえるだろう。

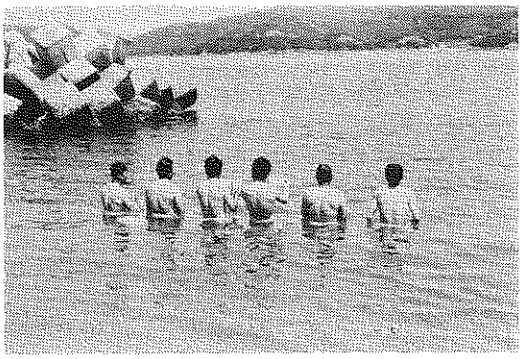
浅間山への参詣は、女の人(特に中年から老年にかけての婦人)が多いが、祭りに関する仕事はすべて男子がとりしきり、漁村の行事であるのに、魚類は一切口にしないことは、古くから守りつがれている。

浅間祭りは、五ケ所湾各集落で行われるが、その地区によってそれぞれ違った作法や習俗が継承されている。村中がその日を休み（日待ち）とする宿田曽地区や、代表者が笹に幣をつけたものを持って、代参する相賀浦、頭屋制が守られていて、講中で餅をつく切原などいろいろある。共通なことは、回数の差はあれ、「水ごりをとることと、当日は精進料理で一切を断い、なまぐさいものを口にしないこと」である。

フジナデシコは、礫浦浅間山の周辺の岩場などに、祭りのころ咲く。浜州の上にできた集落であり、花や樹木など植物に恵まれない土地であるので、サカキなどの代りに、この花が使われるようになったのであろうか。季節に咲く花を持って詣るのは、当地区だけのゆかしい習慣であり、今後もうけつがれてゆくべきである。

㋐－2　伝承の問題点と方策

時代の変化とともに信仰の形態は変らざるを得ないだろう。漁村独特の祭りも、正統的な継承がむつかしくなってきている。若者の在村数も激減したし、一つの祭りをおこなうのに、3日も4日も仕事を休んでいることが不可能な生活形態になっているからである。しかし、少数の中でも、若者の有志たちが今後もこの行事をとりしきってゆくことをきめ、今年も率先して水ごりをし笹竹を振った。本研究がきっかけになってのことである。ある程度の簡略化はまぬがれないし、地区全体が養殖漁業に従事している現在では、現状維持が精一杯であろう。ただ、現時点ならば、旧来の古式を熟知している老人も多いので、煩をいとわず、古式を正しく継承しておく必要があると判断する。頭屋制を復活して、講を復元するのもひとつのカギとなるであろう。今年中心になった若者が祭りの音頭取りとなって、伝承の実践をつづけて行くことが、今後の課題である。



㋑ 迫間浦の丸島祭り

㋑－１ 祭りの概要と変化

迫間浦の湾奥に浮ぶ丸島にまつられている綿津見神社の祭礼を、まるしまさん、と呼んでいる。村中が船で丸島へ渡り、そこで大漁祈願をし、全員がそうめんを食べあう夏祭りである。

祭りは、氏子総代３人が中心となっておこなわれ、氏子総代は、区長、組合長など村の役を経験したものが選挙される。祭礼自体はごく簡単で、一番太鼓、二番太鼓を打ったあと、神主がのりとを読みあげて終わる。神事のあと餅まきがあって、続いて、祭りいちばんの行事である、そうめんを食べる段取りとなる。４斗樽の中で冷やされたそうめんを、わんにとりあって食べる。長生きができると信じられている。

そうめんで腹ごしらえをした村人は、全員、用意した船に分乗して、迫間浦が持つ漁業権内の海を、すみずみまで回遊して大漁を祈願する。先頭の船に神主と氏子総代や祭礼の中心となった人びとが乗り、ひとりが太鼓を打ち、神主は半紙をこまかくきざんだのを海面に撒く。迫間浦の主な漁場である、三浦・東浦・あそだ浦の３ケ所の岩場の松の木に、笹竹を１本立てる。笹竹には、緒とぬさがつけられていて、１年間立てておく。

船を使うのは、地区の青年層であるが、祭礼自体は村の古老が中心となってとり行われる。２・３年前までは、祭りの後半の呼びものであった、海上での潮かけの行事があり、青年層の活躍の場があったが、今は事故をおもんばかって中止されている。これは小学校の児童も、船に分乗してパレードをする船同志が、おけなどで潮を汲んで相手の船に向って潮水をかけあった。雄壮な行事であり、子供たちも海に親しむことができた。

㋑－２ 伝承の問題点と方策

この祭りは１日で終るし、事前の準備もすくないので、伝承はたやすい。青年層は船を操縦するのが中心であるから、伝承にはさほど問題点はない。ただ、以前のような活動的で雄壮な祭りの雰囲気を復活させるためには、やはり、潮かけの行事を再開しなければならない。子供の安全を確保し、従来のように、子供たちも潮をかけあうことは、一考するとして、若者同志だけでも、実践してゆく必要があると思う。

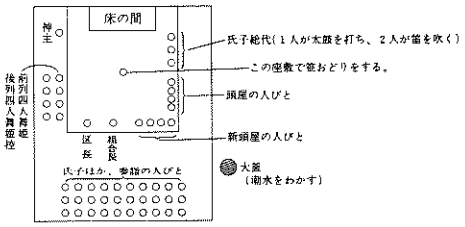
㋒ 相賀浦の氏神祭り

㋒－１ 祭りの概要と変化

相賀浦の大賀（おおが）神社で、11月15・16日の両日に行われる氏神祭りは、町内で最も古式ゆかしい漁村の祭りの雰囲気がある。村人たちは、この日をジンジ（神事）といい、大勢が参詣して大漁を祈願する。

・宵宮行事について

15日の夜６時から行われる宵宮は、翌16日の大祭の前に、身をきよめるための行事と考えられるが、この行事自体が大漁祈願と考えてもよい。「湯立神事」というのがそれである。古くは頭屋の座敷で行われたというが、今は、神社社務所の座敷で行われる。宵宮の湯立神事には、下図のように人のすわる位置がきまっている。



湯立神事は、庭先に大きな鉄釜を据え、潮水をわかして、笹を束ねてほうきのようにし、それを２つ組みあわせたものを両手に持って神事を行う行事である。神主の神事ののち、氏子総代３人のうち１人が太鼓を打ち、あと２人が笛を吹く中で、頭屋番が１人ずつ前に出て、笹を持ち、薬のところをわかした潮水につけて、人びとの頭の上で、それを振る仕草をする。行事もはじめのうちは手びかえているが、終りに近づくにつれ、わざと潮水が体にかかるようにし足を踏みならして、おどる真似をする。参詣人は潮水であるので、それを避けるようにするし、おどり手は、潮水をかけようとして、一瞬、ユーモラスな時が流れる。

湯立神事には、「頭屋の家破り」という言葉が残っている。ある年、頭屋が底抜けにおどりまくったので、座敷の床板が踏み破れたことがあった。たまたまその年、ボラの大漁で浦浜はわき立った。大漁と湯立神事とを結びつけ、以来、「頭屋の家破り」という言葉がうまれ、めでたいとされた。そのため、頭屋番になった家は、わざわざ床板をうすくしたものだといわれる。しかし、これは家の中で潮水をふりかけるので、少しでも早く笹おどりがすむようにという家人の考えで、床板をうすくしたものともいわれている。

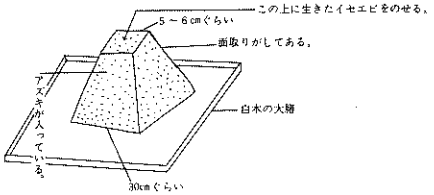
氏子総代３人は白衣に水色のはかまをはく。頭屋の人びとは、黒鳥帽子に白丁風の白衣をつけ、白ばかまをはく。

笹おどりの言葉どおり、この神事は、芸能的要素を多分に持っている。それに背後には信仰があるから、信仰一祈りのために演ずる芸能ということができよう。いわば神事芸能のひとつであり、本町における唯一のものであるといえる。湯立神事は、度会郡二見町の興玉神社にもあるが、ここと違うのは、笹を振るのは、後者においては神主であり、芸能の要素がほとんど認められないことである。むしろ参詣人が湯をかかろうとねがう、信仰の面のみが強い。前者には、遊びの要素が十分に認められ、それだけ、土俗的な匂いの強い行事であるということがいえるだろう。

・大祭について――山の幸と海の幸との考察

大祭のことを村人は、オボシナサンというが、これは産土の神のことであろう。この祭りのために、必ず用意されなければならないものが2種あり、これらが、この氏神祭りの最大の呼びものである。

ひとつが、オヤマといわれる供え物で、別名フジサンともいわれ、山の幸である。オヤマは、1斗2升の赤飯で富士山の型をつくり、白木の大膳に盛り、その上に生きたイセエビをのせたものである。山の幸と考えられるオヤマは宵宮の神事のあと、男手によってつくられる。赤飯を積みあげて作ってゆくのを、ヤマゴシラエという。これは4角錐の形で頂点は尖っていない。



このオヤマ、フジサンという呼び方は、形が富士山に似たところがあるので、そう呼ばれるようになったのであろうと思われる。伊賀や大和地方の神事で使われる、キョウ(饗)に似た神饌である。

もうひとつが、海の幸と考えられるイタノウオである。現在は、地元の漁師が熊野灘で釣った大マグロを使うことになっている。腹をさき、わたを取り除いて、背びれ近くまで包丁を入れ、中にまんべんに塩を押し込んで、11月の祭りの日まで塩蔵する。木で造った水槽で、約3ケ月近く貯蔵する。祭りの日、2mもある板の上に、2匹の大マグロとカツオ2匹、タイ2匹をのせる。横綱の太さぐらいの太い「しめ」で宝珠型に飾りつけをする。これは巨大なマグロの懸けの魚といえる。

16日は一通りの式典のあと、イタノウオが数人で拝殿前にかつぎ出される。裃姿の検分役2名が進み出て検分し、「この魚は姿形もよく質も上々、来年は大漁まちがいなし」と大きな声で参詣者に披露する。検分が終ると、イタノウオは社務所に運ばれ、包丁を入れて細かく切断する。区民に配るためであり、600切れぐらいが必要とされる。この作業の間に、旧頭屋と新頭屋が相対してすわり、神前において、頭屋の引きつぎが行われ、オヤノワンといわれる椀で酒を呑みほす。参列者は「よい、よい、よい」と掛け声をかける。

新しい頭屋の女房は、晴れ着のまま白たびだけになり、立ち上って、オヤマを頭上にいただく。最近は、女性が荷物等を頭上にのせて運ぶ習慣、つまり、イタダキの習慣がなくなっているので、これは容易でない作業である。特にイセエビをひっくり返さないように運ばなければならない。2人ほどの男が介添えをして頭上にいただく。参列者全員の目が女房の頭に注がれ、失敗しないようにと、一同は息を呑む。オヤマを運び終ると、ワーという歓声があがり、祭りは最高潮の中で終了する。

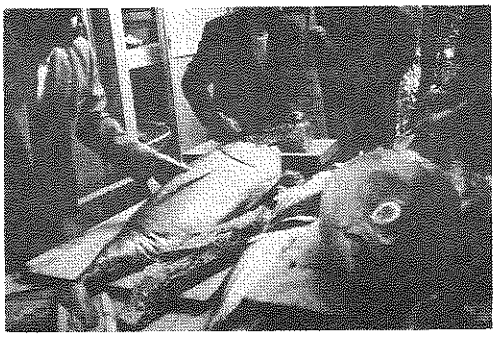
㋐－2 伝承の問題点と方策

古式ゆかしい祭り行事も、世の中の急激な変化によって、簡略化され変化してきている。ただ、イタノウオとオヤマ運びだけは、祭りの中心行事であるので、欠かすことはできず、これからも昔風に継承されてゆくであろう。しかし、それらの準備には、必ず何人かの若い人たちが加わり、イタノウオの塩加減や、オヤマのつくり方のこつを覚えてゆく必要がある。

この地区は、現在でも頭屋制が残っているが、今後、このめずらしい海の祭りを正統に伝承してゆくためには、頭屋制をつづけてゆくか、たやしてしまうかのいずれかにかかっているといっても過言ではない。行事を進行してゆくのはあくまでも神主を頂点として、氏子総代、頭屋番、区長、組合長という人びとの構成ではあるが、それを支える区の役員、婦人会、青年団等の協力が大切なことである。交通の便の向上のほか、諸事簡略化の中で古式を守ってゆくことは、非常にむつかしく、いったん失われてしまうと、その復活については、これまた至難のわざである。区民の信仰とのかかわりの中で考えてゆかねばならないが、今後の正統な保存については、青年団等との協力を密にして関係者が一丸となって、祭り行事を支えてゆく必要があろう。

この祭りは、海とともに生きてきた村人の、海への賛歌ともいえるものであり、大らかさ、明るさとともに素朴さ、海への畏怖を感じとることのできる祭りである。イタノウオも古くはイシモチとボラであったが、遠洋漁業が発達してからは、大マグロを供えるようになった。今はそれに養殖のマダイを加える。これら神饌の変化においても、村自体の漁業の変遷が見てとれるのは興味深いことである。オヤマにのせるイセエビも、漁が解禁される前、網を入れて神事の分を獲る。このことは、その年のイセエビ漁の漁不漁を占うということの大きな意義を持っている。獲れたイセエビの大きさ、数によって、漁民は近づく解禁に胸をおどらし、一冬の胸算用をするのである。それは、初物を神に供えるという漁民の敬けんな祈りの心のあらわれでもある。

現在では宵宮が軽ろんじられ、16日の大祭に重点がおかれているが、宵宮をなるべく旧に復するように努力する必要がある。今ならば、頭屋の座敷で行った経験のある人もいるし、これらの人の記憶を基にして、なるべくていねいに笹おどりをすることが大切であると思う。それには、現在の社務所の座敷では狭すぎるから、拝殿前あたりで復古を試みる必要はないか。来年の課題とすべきであろう。古い祭りを守りつづけてゆくことによって、文化財愛護の精神を向上させ、海と共に生きてきた民の文化遺産を次代に引き渡すことの大切さを、真剣に考えるべきである。その意味において、本委嘱研究は、地区民にこの祭りの重要さを再確認させる大きな刺激となった。



(2) 江島おどりの復活と伝承の実践活動について

㋑ 相賀浦の江島おどりについて

相賀浦地区に古くから伝わる江島おどりは、昭和28年ごろまでは、盆おどりのひとつとして、村中の辻々で輪になっておどられ、受けつがれてきたが、それ以後は全くとだえてしまい、現在に至っている。

江島おどりという名称は、五ケ所湾内の他の漁業集落(田曽浦など)にもあり、盆おどりのひとつとして、寺の庭などでおどられてきたことは、老人の記憶からも当時の様子を聞きとることができるのである。

㋑ 江島おどりが衰微した理由

この江島おどりが絶滅に近い状態になった理由としては、次のようなことが考えられる。

① 普通の盆おどりのように、1ケ所におどり手が集まっておどらなかったので、すたれていった。

② 全体的にテンポが遅いために、おどらなくなった。

③ 歌い出しやおどりの振りに一部むつかしいところがあるので、一般化しなかった。

㋒ 江島おどりの復元と伝承についての実践方法

相賀浦地区には、現在84歳になる老婦人が歌もふしも、おどりの順序も記憶しており、その他3人の老婦人が部分的に記憶しているのがわかったので、この4人からまず第1に歌詞を収集した。末尾に記すとおりである。歌詞を収集する段階で、それぞれ個々に記憶違いもあったが、最長老の84歳の中村こしゅんが、それらをまとめ6節までの「江島ぶし」とした。この中で注意すべきことは、第6節の歌詞は、これも同地区で伝わる、「相賀の子守唄」と同じ点であることである。長い間に両者が混用されてきたのであろう。この点について聞きとりしたが、中村等は、子どものときから、江島ぶしの中にあって歌われてきたということである。

歌詞がきまったのち、まず4人が歌をうたい、調子をあわせる練習をした。歌の節まわしについても、中村こしゅんは自分の母親から直接聞いたといい、それを思い出しながら練習した。左手にうちわを持ってうたう。歌の中では、最初の"エイノヤーレ"という歌い出しの囃子がむつかしい。

伝承については、地区の中年の婦人13人が集まり、4人の老人のおどりを見ながら練習を続けた。しかし、歌の調子が頭に入っていないので、覚えこむのに時間がかかることがわかった。そのため、おどりの練習は一時中断して全員で歌を覚えることとし、中村こしゅんについて声を出して練習した。リズムを頭に入れてから、再度、おどりの型を習うことにした。歌い出しがむつかしい上に、手を合わすタイミングが揃わず、繰り返し練習して体得した。また、途中で左足を出しだとき、左側でうちわをたたくしぐさをするところがむつかしかったが、声を出して歌いながら練習することによって、13人全員が揃うようになった。練習中はうちわを手でたたいて、パンパンという音を立てながらおどったが、これは調査によって音をたてないのが正統の型であることがわかったので、正しく伝承するようにした。

われわれは、伝承の実践にあたっては、次の点に留意した。

① 現時点で望みうる正調な歌を、中村こしゅんに歌ってもらい録音すること。

② その歌によって採譜し、記録すること。

③ 歌詞を正しく記録すること。

④ おどり方については、中村こしゅんら4人を中心として、13人の若手におどりを練習させ、完全に覚えこむこと。

⑤ おどりの練習を、スライド・ビデオに収録し、正確を期すこと。

⑥ 今後は、地区の行事として復活させ、「江島おどり」として盆おどりに加え、伝承してゆくこと。

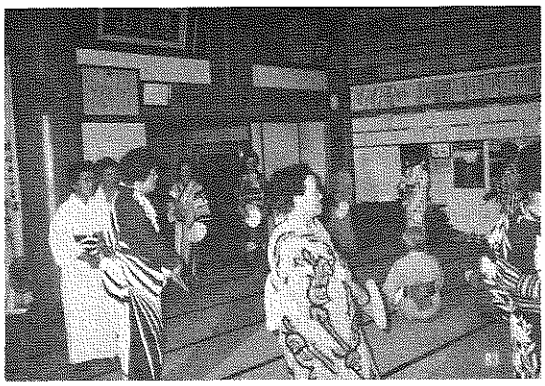
㋓ 伝承の問題と方策

江島おどりの今後の伝承として問題となる点は次のようなことが考えられる。

① 歌のリズムがやや遅いので、早いリズムになれている若者には、ついていきにくいところがあるので、リズム、テンポの手直しを考えること。

② 今回は、13人が中心になって歌およびおどりを継承したが、今後の伝承については、小・中学生を中心とした継承をおこなう必要がある。

③ 長く伝承してゆくために、「江島おどり保存会」を結成すること。



・江島ぶし

中村こしゅんほか3人による。

1．エイノヤーレ　相賀よいとこ旭日を受けて
　　前は氏神　鏡池

2．エイノヤーレ　花の江島を江戸へ行くとおしゃる
　　たぐり寄せたや　膝元へ

3．エイノヤーレ　あだな虫だよ　螢の虫は
　　しのび縄手で　火をともす

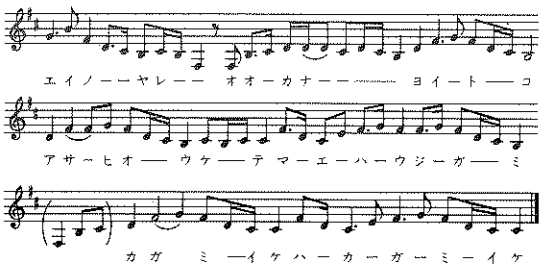
4．エイノヤーレ　踊る娘が来たあの浜へ
　　鳴海絞りの　ゆかた着て

5．エイノヤーレ　相賀川口　二つ瀬ができた
　　おもいきる瀬か　切らぬ瀬か

6．エイノヤーレ　おらが山へ行か　いばらが止める
　　いばらはずせば　日が暮れる

第6節は、同地区に伝わる「相賀の子守唄」の歌詞と同じである。

江　島　ぶ　し



（この楽譜は、中村こしゅん等が歌ったのを録音したテープから、五ケ所中学校音楽担当巽耕一教諭が採譜したものである。二長調）

実践研究の成果と反省

この実践研究を通じて、地域内における文化財への関心が高まり、地域に伝わる祭りやおどりに参加することによって、その由来に興味を持つなど、今まで知らず知らずのうちに過してきた住民が、習慣や行事が長い年代の中で立派な文化遺産として残されていることを学ぶことができた。このことは、文化財愛護思想の高揚につながることであった。

以前はなにげなく見過ごしてきた伝承行事に、個々人が一歩すすんで参加し、民俗文化としての遺産の保存と継承に積極的な行動が期待されるであろう。

またこの委嘱研究によって、地区内の小・中学校の教員に欠けている郷土の歴史についての知識を、社会科の教科書と結びつけて指導ができる教材を作ることができた（教員の大部分は他町出身者である。スライド・ビデオテープ・写真など）。

反面、青年や婦人層の参加をもっと多くするように、行政と地区が一体となって努力し、具体的な実践策をうち出すことが必要であることを反省している。

本研究において特に感じられることは、祭り行事を正しく伝えてゆくためには、頭屋制の保存が肝心であり、礒浦の浅間祭りにおいても、頭屋制度を復活することが正統な伝承につながる。応々にして、行事すべてが簡略化されつつある傾向のとき、なるべくていねいに行事をとり行うことが、文化財としての正しい継承になると思うのである。

註・この報告は、文化庁から三重県教育委員会が委嘱をうけ、南勢町教育委員会が実践研究した「昭和59年度文化財愛護活動推進方策研究」の結果をまとめたものである。
・この研究にあたっては、3地区の区長・漁協長のほか、相賀浦の大賀神社及び桂雲寺の協力があった。

2．文化財愛護強調週間行事　11月1日～7日　昭和58年10月15日付の通知に対する各市町村教育委員会の実施報告による。

1．県

実施事項	実施内容
文化財保護連絡会議	教育事務所単位（教委、関係開発機関）
発掘遺跡現地説明会	国史跡斎宮跡　他
文化財講演会・講習会	斎宮跡　他

2．市町村

実施市町村	実施事項
桑名市	文化財講演会、桑名の歴史と古地図展、市内文化財保存状態調査説明板設置
四日市市	郷土資料館公開、郷土芸能発表会、移動文化教室、歴史講演会
鈴鹿市	市内文化財めぐり、文化財講演会、埋蔵文化財展、市内文化財実態調査
亀山市	市内指定文化財めぐり、亀山の武芸資料展、説明板の設置
多度町	郷土館所蔵出土品の一般公開
木曽岬村	古農具展示会、広報啓発活動
北勢町	町内史跡めぐり
員弁町	文化財調査
大安町	町内伝統芸能（太鼓）の採譜、町史編さん、民家建築様式調査
東員町	埋蔵文化財出土品展、山田城跡発掘公開説明会、町内史跡めぐり
藤原町	白瀬城跡発掘調査、文化財地図作成、町内史跡めぐり第4回「文化財」編さん
菰野町	郷土資料館公開、鍛冶屋の歴史展、菰野藩士方家行列の再現
楠町	町内文化財・史跡めぐり
朝日町	町資料館公開
長島町	町内文化財調査
関町	町内文化財めぐり、文化財資料展、正法寺山荘発掘展
津市	郷土史教室（文化財めぐり）
美里村	村内教育史展
香良洲町	「ふるさと香良洲の歴史を探る」展
一志町	芸能発表会
嬉野町	遺跡出土品展
三雲村	町内史跡めぐり、文化財防火管理状況査察
美杉村	芸能発表会、文化財展示会
安濃町	町内郷土文化財展、文化財防火設備点検
河芸町	民俗・民芸品展
松阪市	史跡公開、氏郷　展「本居宣長と古展講釈」展、松阪三珍花展
飯南町	親子郷土史教室、文化財広報（町勢要覧）
飯高町	郷土探索ハイキング（3地区）成人大学講座（歴史の道）
宮川村	町民文化財保護懇談会、文化財広報（チラシ）道
大台町	町民史跡ハイキング
勢和村	文化財写真展
明和町	斎宮跡講演会、出土品等展示会、みいと織り実演、文化財展示会、郷土史講座受講生展示会
伊勢市	文化財学習会（4回）、文化財めぐり、文化財石柱設置
鳥羽市	答志島史跡めぐり
御薗村	文化財写真展
玉城町	玉城町歴史学園開設、郷土資料特別展
大宮町	郷土資料館農器具展、樋ノ谷遺跡展、高齢者学級歴史教室「大宮町歴史の道」編集・発行
南島町	文化財写真展、文化財講習会、文化財・史跡めぐり
南勢町	民俗資料室の整理と公開、町指定文化財の説明板の設置
度会町	埋蔵文化財展
大内山村	古文書展、出土品展、町内史跡調査
志摩町	古文書解読研究会、町内文化財めぐり
磯部町	町内文化財巡回調査
上野市	文化財研修会、文化財実態調査
伊賀町	文化財保護広報（有線）
阿山町	文化財保護広報（有線）
島ヶ原村	文化財講演会、文化財めぐり、文化財保護広報（有線等）
大山田村	史跡めぐりハイキング、防火施設点検調査
青山町	文化財調査活動
紀和町	婦人会町内史跡めぐり、文化財民俗資料館視察、古文書見学
熊野教育事務所	文化財保護活動推進に関する情報交換会（管内市町村教委）
阿児町	阿児町郷土史学級文化財めぐり

3．文化財防火デー行事　1月26日―第30回―

昭和58年12月23日付の通知に対する各市町村教育委員会の実施報告による。

桑　名　市

実施事項	実　施　内　容
防火訓練	1月30日　立坂神社拝殿より出火したという想定のもとに、桑名消防署出動、氏子、自治会の人も参加し、消火訓練を実施。　参加者　30名
点検依頼	市指定文化財の所有者、管理者に対し防火の点検等を依頼した。

四日市市

消火訓練	1月22日	大入道山車収蔵庫の隣接家屋から出火したと想定し、文化財の搬出、消火訓練等を実施訓練後中消防署長より文化財防火デーの意義について訓話。　参加者　約70名
立入査察	1月23日	収蔵施設等に教育委員会、市消防本部、南消防署とともに立入査察。
消火訓練	1月23日	「旧四郷出張所」玄関付近から出火を想定し、初期消火及び放水訓練を実施。市教育委員会も立合い、市立四郷小学校児童500余名も見学。　参加者　約60名
立入査察	1月24日	収蔵施設等に教育委員会、市消防本部、北消防署とともに立入査察を実施。
消火訓練	1月24日	志氏神社古墳出土品、こま犬等が収蔵されている社務所台所付近から出火を想定し、初期消火活動、文化財搬出等の訓練を実施。訓練後、北消防署長より参加者に対して文化財防火対策について講話。　参加者　約70名
立入査察	1月25日	本市の旧市街地域の文化財収蔵施設等を教育委員会、市消防本部、中消防署と立入査察
消火訓練	1月25日	垂坂山観音寺の元三大師坐像等を収蔵の本堂に隣接した寺務所から出火と想定し、消火放水、救急活動等を実施。　参加者　約80名
立入査察	1月26日	中消防署管内の収蔵施設等に教育委員会、市消防本部、中消防署にて立入査察。
消火訓練	1月26日	・四日市市立図書館の天春家文書等収蔵施設付近から出火を想定し、文化財等の搬出、消火放水等を訓練、また図書館利用者の避難誘導訓練も実施。訓練後、中消防署長より講評。　参加者　約120名 ・足見田神社のお諏訪踊りの舞踊具を収蔵する社務所より出火を想定し、舞踊具の搬出や消火放水訓練を実施。訓練後、南消防署長、氏子総代から文化財の保護保存の重要さについて訓話。　参加者　約70名 ・竜王山宝性寺本堂に隣接した庫裏から出火を想定し消火放水訓練を実施。参加者約60名

亀　山　市

防火訓練	1月26日	本久寺の庫裏より出火し、本堂に延焼の恐れありと想定の下に、重要物件搬出等の訓練を実施。更に、訓練後消火器等を点検し、反省会を持った。 参加者、亀山消防署員13名　市教育委員会2名　本久寺（管理者等）3名

説 明 会	1月11日　防災に関する心がまえ避難及び初期消火について市教育委員会職員、消防署員、本久寺（松居祥璽）による説明会を行った。

津　　市

消防訓練	1月26日・高田山専修寺及び橋向自治会、地震発生、御影堂のローソクが倒れ出火し、如来堂へ延焼しつつあり、又橋向地区においても出火本山へ延焼のおそれありとの想定のもとに初期消火活動、消防訓練を実施。訓練後高田幼稚園児に防火紙芝居を行った。参加者　消防職員28名、消防団員8名、津市婦人防火推進委員30名、自治会等 150名、本山20名、参加車輌　はしご車等10台 ・谷川土消旧宅　見学者が誤ってストーブを転倒させ出火、建物に延焼中の想定のもとに消火訓練を行ない訓練後、消火器の取扱訓練を実施。　参加者　消防職員11名、消防団員8名、八町3丁目自治会関係20名、参加車輌　ポンプ車等4台 ・雲出小学校　給食室から出火し、火勢は旧校舎玄関へと延焼しつつありとの想定のもとに消火訓練を実施。　参加者　消防職員12名、学校関係者　参加車輌　ポンプ車等4台 ・神宮寺　住職宅の石油ストーブから出火、本堂へ延焼しつつありとの想定のもとに初期消火活動、消火訓練を行ない、訓練後消火器の取扱訓練を実施。参加者　消防職員11名消防団員8名、自警団10名、津市婦人防火推進員10名、各地区住民　参加車輌　ポンプ車等4台、手引きポンプ1台 ・高山神社　社務所の湯沸場より出火し本殿へ延焼しつつありとの想定のもとに神社関係者は、文化財の搬出にあたり、消防隊は消火訓練を実施。　参加者　消防職員8名、神社関係8名　参加車輌　ポンプ車等2台 1月25日・市杵島姫神社　子供の火あそびにより神社から出火、隣接の住宅に延焼しつつありとの想定のもとに消火訓練を実施。　参加者　消防職員9名　参加車輌　ポンプ車2台 ・久善寺　庫裏から出火し本堂に延焼中の想定のもとに、消火訓練を実施。 参加者　消防職員7名　参加車輌　ポンプ車等4台 1月29日・勝久寺　庫裏から出火し本堂に延焼中の想定のもとに、消火訓練を実施。 参加者　消防職員7名、寺関係者5名　参加車輌　ポンプ車2台
立入検査	消防署より　神宮寺、谷川士清旧宅、阿部家住宅、専修寺、慈智院、雲出小学校の立入検査を実施
警防査察	消防署より　四天王寺、観音寺、一御田神社、仲福寺の警防査察を実施。
防火診断 警防査察	消防署より　大長寺、福蔵寺、長法寺、光善寺、厚源寺の防火診断及び警防査察を実施。
広　　報	市政だより1月16日号に文化財防火デーの記事を掲載、文化財所有者に対し、防火、防災に関する注意書発送、文化財防火デーポスター及び立看板の掲出。

安 濃 町

広　　報	町広報及び町広報車により一般住民への呼びかけ実施。
防火訓練	1月26日　昆沙門天立像所在の町内連部地区住民20人に対し震災時の心がまえ。避難及び簡易水道消火栓による初期消火と防火訓練を実施。
説 明 会	1月8日　薬師如来を所蔵する安濃町田端上野区に於て文化財に対する防災について説明会を行なった。

美　里　村

広　　報	立看板の設置５ヶ所（美里村役場、美里農協、辰水農協、北長野バス停、南穴倉バス停）

美　杉　村

啓発活動	村内の国、県指定文化財所有者に対し、啓発活動の実施。

河　芸　町

広　　報	町広報紙による文化財愛護の啓蒙、町内消防団による防災パトロール。
そ の 他	学校、公共施設、神社、寺閣等の消火器具、設備の点検、その他、町行事の中での資料展示。

松　阪　市

防火訓練	１月26日　本居宣長旧宅より出火の想定の下に消火栓を使用して放水消火訓練を行なった。その後、消防署職員の指導のもとに消火剤を使った初期消火訓練も実施。歴史民俗資料館も同様消火訓練を行なった。　参加者30名　参加車輛　消防車２台

飯　南　町

点　　検	消防用設備の点検、消火器の消火薬剤の補充等の処置
広　　報	町広報による文化財の保存の必要性及びその防火についてのアピール。

飯　高　町

防災訓練	58年９月１日　町民の財産及び文化財を火事・地震等から守るための心がまえ、避難防災の技術等について指導する　参加者 200名
通　　知	本町の指定文化財は災害時に持ち出し等が不可能なため、火災の原因となるものを一切、排除するよう管理者へ通知する。
防火点検	出火した場合を想定して、消火方法、連絡等について広域消防より指導を受ける。
広　　報	飯高広報（１月号）により、文化財の防火について注意を促す。

多　気　町

広報活動	有線放送によって住民に呼びかける。

明　和　町

点検活動	文化財保存者の住民に対し、火災、震災時等に対する心がまえ、避難及び初期消火等の行動について、啓発、啓もう、点検活動を実施。

大　台　町

広報活動	広報紙によって住民に呼びかける。

勢　和　村

点　　検	各消防分団で消防機械、器具の点検を実施　参加者 180名
管理指導	1月26日　文化財管理について所有者に指導。

宮　川　村

施設見回	民俗資料館及び県指定文化財（大杉神木）周辺の防火について点検を実施。
防災会議	村文化財保護委員会を開き防災に対する一年間の反省と今後の対策について協議。
広報活動	村広報紙等で文化財の大切さと防災について理解を求めた。

伊　勢　市

防火訓練	1月26日	金剛証寺本堂（重文）より出火想定、市消防署ポンプ車2台と放水銃2基で放水消火訓練実施。市消防署員4名、消防隊50名、市教委（4名）及び自衛消防団員	
立入検査	1月26日	金剛証寺	消火器、漏電、異常なし。ストーブ1基耐震性に、煙道にメガネ石を巻く、自販器、洗濯器にアース取り付け等是正指示。（市消防署員4名、中電職員2名、市教委3名）
		久昌寺	カマド亀裂の埋め戻し、井戸水上げポンプアース取り付け、警報器のコードパイプ巻きに等是正指示。（市消防署員1名、中電職員2名、市教委3名、檀家総代）
	2月3日	世義寺	消火器、漏電、異常なし。ソケットコードの取り変え、ブレーカーの銅線を銅バーに等是正指示。
		寂照寺	消火器、漏電、異常なし。ハダカ電球ソケット、ビニール線、ステップル打ちを是正指示。光明寺、等観寺、異常なし。（市消防署員1名、中電職員2名、市教委2名）
	2月6日	神宮徴古館農業館	消火器5本期限切れ、防火管理者、誘導標式板の設置指示。
		神宮文庫	防火管理者の設置、火災警戒区地図の作成、灯油の設備量が多い等是正指示旧慶光院址（祭主職舎）、林崎文庫、異常なし。（市消防署員1名、中電職員2名、市教委1名）

鳥　羽　市

広報活動	ポスターを作成、小中学校、市内一円の掲示板に貼付。

南　勢　町

懇 談 会	1月26日　文化財保護審議会委員8名、消防署職員2名、市教委2名で防火、文化財保護についての話し合い粉末消火器より水性消火器の方が木造建築物には適しているとの指摘あり。
説 明 会	1月26日　文化財防火デーの趣旨を説明する。
防火点検	1月26日　木造阿弥陀如来坐像について点検、消火器を常備するよう指示。

度　会　町

防火点検	1月25日　下久具獅子頭、注連指十一面観音立像　異常なし。 伊勢消防署員2名、中電職員2名、町教委2名、下久具獅子頭管理者1名、注連指十一面観音管理者1名

阿　児　町

防火訓練	1月26日午前10時～11時30分　志摩国分寺の庫りより出火想定、志摩消防署、阿児町消防団第3分団、国府自治会、国分寺保存会等が参加し消防訓練を実施。訓練後防火点検と参加者全員が反省会を開いた。
防火査察	1月26日午後1時～3時30分　甲賀見宗寺　大日堂、立神少林寺観音堂、安乗安乗寺薬師堂、安乗人形芝居舞台の防火査察を行った。参加者　志摩消防署4名、阿児町教育委員会2名

志　摩　町

防火訓練	文化財調査委員による町内の文化財査察実施。
点　　検	文化財の消防器具等文化財調査委員、消防署員合同による点検、補充等実施。
協 議 会	文化財調査委員、文化財関係者による防災知識の認識等実施。

上　野　市

防火訓練	1月26日午後12時30分　仏勝寺において「ストーブの火の不始末により庫裡から出火した火災が、折からの強風にあおられ本堂に延焼した」という想定のもとに、消防本部、消防署、消防団本部、西部分団、寺関係者、地区民が出動して防火訓練を実施。 尚、訓練風景を明星保育園児約50名が見学した。参加者　消防団関係20名、寺関係者、地区民25名、教委3名
講 習 会	地区民を対象に消防課予防係の指導のもとに、消火器の扱い方についての実地講習を実施。

名　張　市

消防訓練	1月26日午前9時～正午　西光寺庫裡の炊事場附近から出火との想定により、バケツリレーによる初期消火と代替物を使った重要品の搬出、ポンプ車、タンク車による放水訓練を実施。更に消防署員による消火器の取扱説明及び消火訓練を実施。参加者　約150名
啓　　発	市内の指定文化財所有者に対して防火対策の強化啓発を行った。対象22件

伊　賀　町

防火訓練	1月26日午前10時～午前11時30分　西光寺の庫裡から出火、本堂へ延焼の恐れありという想定のもとに上野消防署伊賀出張所、役場応援部、消防団第2分団第3部が出動し消火訓練実施また教委職員、役場職員等の指導の下に重要文化財の搬出通報、初期消火の訓練を実施更に震災時の心がまえ、冬期渇水時の水対策及び火気取り扱い注意等の説明会を行った参加者　50名

阿　山　町

広報活動	町有線放送を通じ、文化財の防災に関する広報を実施。

島ヶ原村

広報活動	有線放送で村民に啓蒙すると共に、公用車で村内を巡回し、全村民に周知徹底を図った。
防火訓練	1月26日午前8時50分～10時　観菩提寺の裏山より出火の想定のもとで、伊賀北部消防組合島ヶ原出張所の協力のもとに防火訓練を実施。参加者　観菩提寺関係者と近所の人及び消防関係者40人
講 習 会	1月25日　震災時の心構え、火事の恐ろしさ、初期消火、避難、灯油、ガス、消火器等の取り扱いについての講話と実技講習会を開催。

大山田村

防火査察	1月26日　新大仏寺、極楽寺、広徳寺について防火査察を実施し、警報設備、消火器等の設置状況調査並びに管理使用方法について指導。参加者　伊賀北部消防組合大山田出張所村教委

青　山　町

防火点検	1月26日　町内の国、県指定文化財7件を訪問、防火施設の点検、管理者に対する啓蒙を行った。参加者　消防署員2名、教委職員1名

尾　鷲　市

啓　　発	指定文化財の所有者に対し、文化財防火デーの趣旨と所有指定文化財の保存方に留意、協力の文書を通知しこのことを地元新聞に記事として提供し所有者、市民に啓発した。
防火訓練	昭和58年９月７日午前10時～11時30分　国、県指定文化財等を保管する中央公民館において、火災発生を想定し、避難並びに初期消火訓練等を実施。

熊　野　市

委 員 会	指定文化財防火に関する現状について議題とし、安楽寺、御仕方質倉の点検を行うことを決定する　参加者　文化財専門委員６名、市教員３名
点　　検	１月26日　安楽寺、御仕方質倉の消火栓、防火水槽を点検。参加者　文化財専門委員、市教委　計５名

御　浜　町

広報活動	文化財愛護思想の高揚をはかるため、有線放送を通じ全町民に対し広報活動を行った。

紀　宝　町

広報活動	文化財の防災に関する有線放送の実施。

紀　和　町

広報活動	公報車による火災予防の啓蒙を行った。

〈資　　料〉

1．国、県指定文化財（建造物・有形文化財等）管理実態調査報告

昭和58年10月28日付の依頼に対する各市町村教育委員会の報告による。

1．国、県指定建造物　　※ ×印……該当項目に異常のあるもの

国県別	市町村	所有者	名称	基礎	縁廻	外壁	屋根	虫害	排水	通風	報告なし
				石積み 亀腹 礎石	床板 床上重量物	破損 剝離	雨どい 瓦 泥土	蟻害	溝 排水溝 集水溝	繁茂 雑草	
国	関町	地蔵院	地蔵院愛染堂				×				
	美杉村	国津神社	国津神社十三重塔								
	津市	専修寺	専修寺御影堂 国補事業中								
	〃	〃	専修寺如来堂 国補事業中								
	伊勢市	金剛証寺	金剛証寺本堂附厨子	×	×	×	×	×			
	鳥羽市	庫蔵寺	庫蔵寺本堂　附厨子、棟札		×						
	〃		庫蔵寺鎮守堂　附棟札								
	青山町	大村神社	大村神社宝殿　附棟札								×
	島ヶ原村	観菩提寺	観菩提寺本堂	×		×	×	×		×	
	〃		観菩提寺楼門　附棟札	×			×				
	上野市	町井良樹	町井家住宅								
	〃	高倉神社	高倉神社　附棟札				×	×			
	〃	猪田神社	猪田神社本殿　附棟札				×			×	
	〃	射手神社	射手神社十三重塔	×							
県	員弁町	東林寺	石造宝篋印塔								
	桑名市	諸戸清文	推敲亭							×	
	〃	〃	御成書院								
	〃	春日神社	銅鳥居								
	鈴鹿市	観音寺	観音寺仁王門								
	〃	龍光寺	書院								
	関町	地蔵院	地蔵院本堂				×				
	久居市	千手院	石造板五輪塔								
	白山町	白山比咩神社	白山比咩神社本殿（川口）			×		×		×	
	〃	〃	〃　（南出）								
	津市	浄明院	石造宝篋印塔								×
	〃	専修寺	専修寺山門	×	×	×					
	〃	〃	〃　唐門								
	〃	〃	御廟拝堂及び唐門								×
	〃	慈智院	慈智院本堂	×	×	×	×	×			
	松阪市	龍泉寺	三門								×
	〃	朝田寺	朝田寺本堂								×
	〃	〃	〃　山門								×
	伊勢市	寂照寺	経蔵								
	上野市	猪田神社	猪田神社本殿付棟札		×		×	×		×	
	〃	愛宕神社	愛宕神社本殿付棟札							×	
	〃	上野市	旧小田小学校		×	×	×	×			
	〃	常住寺	木造閻魔堂		×			×			
	阿山町	来迎寺	石造宝塔								
	名張市	杉谷神社	杉谷神社本殿								
	青山町	滝仙寺	石造九重塔								

国指定有形文化財

〈絵画〉

市町村	所有者	名称	公開 年中	公開 特定日	損傷の有無
桑名	大福田寺	絹本著色釈迦八相道図		(寄託)	
津	専修寺	絹本著色阿弥陀三尊像			
〃	〃	紙本著色善信上人絵詞伝			全体
〃	〃	絹本著色阿弥陀三尊像			
〃	〃	紙本淡彩歌仙像			
〃	西来寺	絹本著色阿弥陀来迎図			
〃	〃	〃 聖徳太子勝髪経		(寄託)	
〃	四天王寺	〃 藤堂高虎像		(〃)	
〃	〃	〃 聖徳太子像		(〃)	
〃	地蔵院	〃 地蔵菩薩像		年6回	部分
白山	成願寺	〃 仏涅槃図			
勢和	西導寺	〃 法然上人絵伝			
松阪	長谷川	絹本淡彩離合山水図			
伊勢	金剛証寺	絵本著色九鬼嘉隆像	○		
〃	神宮	〃 伊勢新名所	○		
上野	西蓮寺	絹本著色藤堂高虎像			
大山田	新大仏寺	〃 興正菩薩像			虫喰

〈彫刻〉

市町村	所有者	名称	公開 年中	公開 特定日	損傷の有無
鈴鹿	太子寺	木造善然上人坐像			
〃	神宮寺	〃 薬師如来立像			
〃	林光寺	〃 千手観音立像		8/10	
〃	府南寺	〃 金剛力士立像	○		
〃	妙福寺	〃 釈迦如来坐像	○		虫喰
〃	〃	〃 大日如来坐像 150	○		〃
〃	〃	〃 〃 147	○		〃
四日市	観音寺	〃 慈恵大師坐像	○	5/8 9/3	剝離
〃	大聖院	〃 不動明王立像		1/28 8/28	
〃	善教寺	〃 阿弥陀如来立像			
津	四天王寺	〃 薬師如来坐像	○		
〃	蓮光院	〃 大日如来坐像		3月初午	
〃	〃	〃 阿弥陀如来坐像		〃	
〃	勝久寺	〃 阿弥陀如来坐像	○		
〃	〃	〃 聖観音立像	○		
〃	〃	〃 地蔵菩薩立像	○		
津	光善寺	木造薬師如来坐像他1軀		5/8	
〃	大長寺	〃 地蔵菩薩半跏像			
白山	常福寺	〃 千手観音立像		4/17、18 8/8、10	
〃	成願寺	〃 阿弥陀如来倚像			
嬉野	薬師寺	〃 薬師如来立像			
松阪	朝田寺	〃 地蔵菩薩立像			
〃	清光寺	〃 阿弥陀如来坐像			
〃	射和	〃 地蔵菩薩坐像			
〃	真福寺	〃 阿弥陀如来坐像			
多気	近長谷寺	〃 十一面観音立像		毎月18日	部分
〃	普賢寺	〃 普賢菩薩立像		〃	
〃	乾秀治	〃 諸尊仏龕			部分
伊勢	金剛証寺	〃 雨宝童子立像	○		
〃	久昌寺	〃 阿弥陀如来立像	○		
玉城	田宮寺	〃 十一面観音立像漆箔		毎月18日	
〃	〃	〃 〃 彩色		〃	
二見	大江寺	〃 千手観音坐像			
度会	正法寺	〃 十一面観音立像		1/15 9/18	虫喰
二見	明星寺	〃 薬師如来坐像			
志摩	和具	銅造如来坐像	○		
島ヶ原	観菩提寺	木造十一面観音立像		33年に1回	虫喰
大山田	新大仏寺	〃 俊乗上人坐像			
〃	〃	〃 僧形坐像			
〃	〃	〃 如来坐像附石造基壇			
伊賀	万寿寺	〃 地蔵菩薩坐像			
青山	宝厳寺	〃 十一面観音立像			
名張	弥勒寺	〃 聖観音立像			
〃	〃	〃 十一面観音立像			
〃	無動寺	〃 不動明王立像			全体
上野	勝因寺	〃 虚空蔵菩薩坐像		33年に1回	
〃	常福寺	〃 五大明王像			部分
〃	市場寺	〃 四天王立像	○		
〃	〃	〃 阿弥陀如来坐像			虫喰
〃	長隆寺	〃 薬師如来坐像			剝離
〃	仏土寺	〃 阿弥陀如来坐像			虫喰
〃	西光寺	〃 観世音菩薩坐像他1軀			剝離
〃	念仏寺	〃 阿弥陀如来坐像			
〃	仏勝寺	〃 薬師如来坐像		33年に1回	虫喰

〈工芸品〉

多　度	多度神社	金銅五鈷鈴			
桑　名	諸　戸	三島平茶碗			
四日市	鵜森神社	十六間四方白星兜鉢			
鈴　鹿	伊奈冨	木造扁額			全体
〃	神宮寺	〃　持国天立像多聞天立像		50　日	
亀　山	慈恩寺	〃　阿弥陀如来立像			
安　濃	善福寺	〃　昆沙門天立像			
三　雲	永善寺	〃　阿弥陀如来坐像		無回答	
国　博	苗秀社	太刀　伝国俊		(寄託)	
多　気	長盛寺	薙刀			
伊　勢	金剛証寺	銅造　双鳳鑑	○		
〃	〃	太刀　銘不明	○		部分
〃	神　宮	毛抜形太刀	○		
〃	〃	太刀　俊忠		7日間	
〃	〃	〃　吉信		〃	
〃	〃	刀　有国		(寄託)	
〃	〃	神宮古神宝類		7日間	
〃	〃	太刀　次家		〃	
鳥　羽	八代神社	鉄獅子噛文金銅象嵌鍬形			全体
名　張	福成就寺	黒漆厨子			部分
〃	延寿院	石造燈籠			
上　野	観音寺	木造　阿弥陀如来坐像			
〃	蓮徳寺	〃　日光月光菩薩立像			

〈書跡〉

多　度	多度神社	紙本墨書神宮寺伽藍縁起			
桑　名	大福田寺	紙本墨書勧進状他2幅		(寄託)	
〃	諸　戸	虚関師錬墨蹟			
〃	〃	大覚禅師墨蹟			
津	四天王寺	紙本墨書民部田所勘注状他			
〃	西来寺	〃　大般若経(109)		(寄託)	
〃	〃	注大般涅槃経2．12		(〃)	
〃	〃	版本天台三大部			
〃	専修寺	紙本墨書観無量寿経他			
〃	〃	〃　水鏡　上中下			
〃	〃	〃　後陽成天皇宸翰御消息			
〃	〃	親鸞聖人消息			
〃	〃	唯信鈔聖覚作親鸞筆他2冊			
〃	〃	見聞集親鸞筆他			
津	専修寺	教行信証			
〃	〃	尊号真像銘文親鸞筆			
〃	坂　口	成唯識論述記巻第9本			
〃	〃	御野国加毛郡半布里大宝2年			
松　阪	〃	本居宣長稿本類(国補事業)			
多　気	近長谷寺	紙本墨書近長谷寺資財帳		1/7	
伊　勢	光明寺	紙本墨書結城宗広并夫人書状			部分
〃	〃	〃　光明寺残篇			〃
〃	神　宮	古文尚書	○		
〃	〃	古事記裏書	○		
〃	〃	古事記上巻	○		
〃	〃	日本書紀私見聞	○		
〃	〃	神宮法楽和歌		7日間	
〃	〃	度会氏系図			
〃	〃	日本書紀私記	○		
〃	〃	皇太神宮儀式帳残巻他	○		
青　山	常楽寺	大般若経附唐櫃			
上　野	沖　森	更科紀行芭蕉自筆稿本			

〈歴史資料・考古資料〉

多　度	多度神社	銅鏡			
伊　勢	神　宮	渋川春海天文関係資料	○		部分
〃	〃	角屋家貿易関係資料	○		
〃	世義寺	陶経筒			部分
〃	神　宮	据台付子持瑟	○		
〃	〃	金銅透彫金具	○		
鳥　羽	八代神社	伊勢神島祭祀遺物			
大山田	新大仏寺	板彫五輪塔			

県指定有形文化財

〈絵画〉

四日市	大樹寺	絹本著色仏涅槃図			有
〃	〃	〃　真源大沢禅師像			有
〃	〃	〃　禅源大済禅師像			有
〃	観音寺	〃　仏涅槃図		5/3　8/3	部分
桑　名	十念寺	金地着色祭礼図屏風			
〃	鎮国守国	絹本着色松平定信像			全体
東　員	瑞応寺	〃　景川和尚像			〃
津	津　市	紙本淡彩谷川士清肖像画像			

津	田中	絹本着色羅漢図			
〃	西来寺	紙本淡彩白衣観音像			
〃	専修寺	絹本着色真慧上人像			
松阪	継松寺	絹本着色普賢延命菩薩像			
〃	朝田寺	孟蘭含経説相図			
〃	〃	紙本墨画獅子図			
〃	〃	曽我蕭白筆獏図・鳳凰図			
〃	継松寺	紙本着色曽我蕭白筆雪山童子図			
勢和	西導寺	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図			全体
伊勢	等観寺	紙本著色長谷川等伯筆四季山水図		非公開	全体
〃	神宮	〃 伊勢両宮曼荼羅図			
島ヶ原	西念寺	絹本着色仏涅槃図		3/14	
青山	滝仙寺	絹本着色大威徳明王像			
名張	杉谷神	紙本着色北野天神縁起			
上野	仏土寺	〃 十二天画像		年1回	
〃	常住寺	十王図			有

〈彫刻〉

菰野	竹成	木造大日如来坐像			
四日市	悟真寺	〃 阿弥陀如来立像		毎月1日・15日	部分
〃	正法寺	〃 地蔵菩薩坐像	○		
〃	観音寺	〃 誕生釈迦仏立像		5/3 9/3	部分
〃	〃	〃 地蔵菩薩坐像		〃	〃
〃	願正寺	〃 阿弥陀如来坐像		非公開	〃
〃	〃	〃 仏頭		5/8 11/8	
〃	永福寺	〃 毘沙門天立像		5/3 9/3	
〃	観音寺	〃 薬師如来立像		8/8、10	
桑名	勧学寺	〃 千手観音立像		8/20	
〃	大福田寺	〃 阿弥陀如来立像		10/13	有
〃	神館神	〃 獅子頭			
鈴鹿	法雲寺	〃 薬師如来坐像	○		
〃	南陽寺	〃 釈迦如来坐像			部分
〃	神宮寺	〃 男神像		50日	〃
〃	菅原神	〃 天神像		10/1 3/25	〃
〃	伊奈冨	伊奈冨神社神宝			全体
大安	光蓮寺	木造薬師如来坐像	○		部分
東員	穴太	〃 〃	○		
久居	宝樹寺	石造地蔵菩薩坐像	—	回答ナシ	—
〃	光明寺	〃 地蔵菩薩立像	—	〃	—
久居	栄松寺	石造地蔵菩薩立像	—	回答ナシ	—
芸濃	楠原	磨崖阿弥陀如来立像	—	〃	—
〃	〃	〃 地蔵菩薩立像	—	〃	—
〃	〃	〃 聖観音立像	—	〃	—
安芸	松原寺	木造聖徳太子立像			
白山	東明寺	〃 薬師如来立像			
津	専修寺	〃 親鸞聖人坐像			有
〃	厚源寺	〃 聖徳太子立像	○		
〃	専修寺	〃 阿弥陀如来立像			有
美杉	日神	日神石仏群	○		
多気	河田	木造神像男神坐像女神坐像			部分
松阪	朝田寺	〃 像形坐像			
大内山	長久寺	〃 阿弥陀如来坐像	○		
二見	明星寺	〃 〃			
玉城	小林	銅造千手観音立像	—	回答ナシ	—
大宮	福田寺	木造阿弥陀如来坐像			
志摩	和具	〃 仏頭	○		部分
阿児	国分寺	〃 薬師如来坐像			
玉城	山神	獅子頭	—	回答ナシ	—
志摩	和具	木造十一面観音立像	○		
鳥羽	庫蔵	〃 荒神像			
〃	賀多神	能面			有
伊勢	世義寺	木造愛染明王坐像	○		
〃	光明寺	〃 阿弥陀如来坐像	○		部分
〃	金剛証寺	〃 地蔵菩薩立像	○		
〃	茜社	獅子頭			有
上野	長隆寺	木造大日如来坐像			〃
〃	仏土寺	〃 日光菩薩立像 〃 月光菩薩立像			部分
〃					
〃	相生町	上野天神祭供奉面			部分
〃	紺屋町	〃			〃
〃	三之西町	〃			〃
〃	長楽寺	木造四天王立像			有
〃	菅原	岩根の磨崖仏	○		
島ヶ原	観菩提寺	木造聖観音立像	○		全体
〃	〃	〃 十一面観音立像	○		〃
〃	〃	〃 多聞天立像	○		〃
〃	〃	〃 広目天立像	○		〃
阿山	西音寺	〃 薬師如来坐像		年4回	〃
大山田	広徳寺	〃 阿弥陀如来坐像他	○		

大山田	広徳寺	木造阿弥陀如来坐像	○		
〃	〃	〃 釈迦如来坐像	○		
伊賀	西光寺	〃 阿弥陀如来坐像他			
名張	弥勒寺	〃 薬師如来坐像			
〃	〃	〃 弥勒如来坐像			有
尾鷲	真巌寺	〃 薬師如来坐像	—	回答ナシ	—
海山	安楽寺	〃 〃	○		

〈工芸品〉(No.は登録番号)

四日市	伊達	太刀（No.1199）		（寄託）	
〃	瀬尾	青磁香炉	○		
〃		陶製燈炉	○		部分
鈴鹿	桃林寺	銅鐘	○		
〃	伊奈冨神	陶製三足壺			
〃	観音寺	銅燈籠	○		部分
桑名	松岡	刀（No.3017）			
〃	鎮国	集古十種版木			部分
〃	松岡	刀（東京No.4697）			
〃	〃	刀（No.14575）			
〃	〃	短刀（東京No.140034）			
〃	〃	刀（愛知No.11880）			
多度	多度神	短刀（No.6610）			
〃	〃	太刀（No.1418）			
朝日	小向神	陶製神酒徳利	—	回答ナシ	—
白山	白山比咩	石造燈籠			
〃	瀬古区	水晶製舎利塔			
美杉	仲山神	石造水舟	○		
〃	飯泉寺	木造台座	○		
津	専修寺	銅鐘			
〃	〃	笈			
〃	護国	刀（No.19）		（寄託）	全体
飯南	来迎寺	銅鐘	○		
飯高	泰蓮寺	八角銅鐘	○		
〃	粟野区	鰐口			
明和	西山	刀（No.9168）			
〃	〃	短刀（No.17229）			
松阪	吉田	短刀	—	回答ナシ	—
〃	〃	鐔	—	〃	—
〃	矢ヶ瀬	刀（No.17044）	—	〃	—
〃	西村	脇差（兵庫No.6418）	—	〃	—

松阪	竹川	刀	—	回答ナシ	—
〃	〃	脇差	—	〃	—
〃	〃	薙刀	—	〃	—
南島	片山寺	雲板			
大内山	汲泉寺	雲板	○		
阿児	薬師堂	鰐口	○		
伊勢	伊藤	雲板		非公開	
島ヶ原	観菩提寺	鰐口			部分
大山田	新大仏寺	水晶舎利塔			
上野	鍛冶町	上野天神祭山車幕			
〃	福井町	〃 金具			
〃	常住寺	木造厨子附木造閻魔坐像			

〈書跡〉

四日市	大樹寺	紙本墨書大般若経			有
亀山	石上寺	〃 石上寺文書			
桑名	平野	紙本摺写鐔拓本集			
鈴鹿	酒井神	酒井神社文書		7、8月虫干時	全体
多度	徳蓮寺	紺紙金銀			
津	田中	紙本墨書古文書			
〃	結城	〃 結城神社文書		（寄託）	
〃	専修寺	〃 皇太子聖徳奉賛			
〃	〃	〃 浄肉文			
〃	〃	〃 親鸞消息			
〃	〃	〃 大谷屋地寄進状			
〃	〃	〃 日野氏系図			
〃	西来寺	〃 真盛自筆消息			
〃	坂口	古文書		（寄託）	
白山	成願寺	紙本墨書成願寺文書			
〃	〃	布帛墨書真盛筆戸帳			
芸濃	美濃夜神	棟札	—	回答ナシ	—
松阪	西黒部	紙本墨書西黒部文書		非公開	部分
〃	来迎寺	〃 真盛自筆消息		〃	
〃	竹川	〃 射和寺文書			
〃		〃 本居宣長自筆稿本類	○		部分
〃		本居宣長関係資料			
多気	津田神	紙本墨書神事頭番帳			
明和	安養寺	〃 凝兀大恵印信他			有
〃	〃	〃 安養寺文書			有
南島	古和	〃 古和文書			

南　島	甘露寺	紙本墨書大般若経			
二　見	松下区	〃　〃			
南　勢	正泉寺	〃　〃			
阿　児	薬師堂	〃　〃		1、5、9月12日	
志　摩	片　田	〃　〃	○		
伊　勢	村松区	〃　〃		3/8	有
〃	光明寺	〃　光明寺文書		非公開	
〃	神　宮	〃　御塩殿文書	○		
〃	〃	〃　荒木田守武連歌	○		
〃	〃	〃　神道五部書の内	○		
〃	大　湊	大湊古文書			有
鳥　羽	国　崎	紙本墨書国崎文書			
南勢他		〃　竈方古証文			
上　野	念仏寺	〃　末代念物授手印			
〃	西蓮寺	〃　真盛自筆消息			
尾　鷲		〃　尾鷲大庄屋文書	—	回答ナシ	—
〃	須賀利	須賀利浦方文書	—	〃	—

青　山	柏尾区	柏尾番頭帳			
名　張	森　本	紙すき用具一式			
尾　鷲	尾鷲神	尾鷲神社獅子頭	—	回答ナシ	—
〃		八鬼山町石及石造三宝	—	〃	—
熊　野	北　野	鯨の供養塔			部分

〈考古〉

四日市	菟頃利	銅鐸	○		
美　杉	漆　区	漆経塚出土品	○		
一　志	延命寺	石棺			
津	専修寺	銅鐸			
勢　和	神宮寺	陶経筒			
大山田	沖　森	鳳凰寺の出土品	○		
上　野	慈尊寺	石造板碑			

〈有形民俗文化財〉

四日市	伊　藤	蝠堂民俗玩具			
〃	南納屋	鯨舟山車		四日市まつり	
〃	大入道	大入道山車		〃	
員　弁	大　溜	刻限日影石			
多　度	伊　東	自筆本桑名日記、柏崎日記			部分
鈴　鹿	八幡神	江島若宮八幡神社絵馬群		3/15、16	有
津	漁政課	三重県水産図解、図説			全体
玉　城	宮　古	宮古の石風呂			
度　会	小　野	道楽神石塔			
〃	下久具	獅子頭		1/1	有
志　摩		越賀の舞台	○		部分
青　山	富　田	参宮講看板付俵屋看板	○		

2．県新指定文化財調査報告書

1．紙本墨書類聚名義抄　桑名市吉之丸9　鎮国守国神社（平松令三委員、古川真澄委員、昭58.11.29、昭59.2.25調査）

〔法量〕

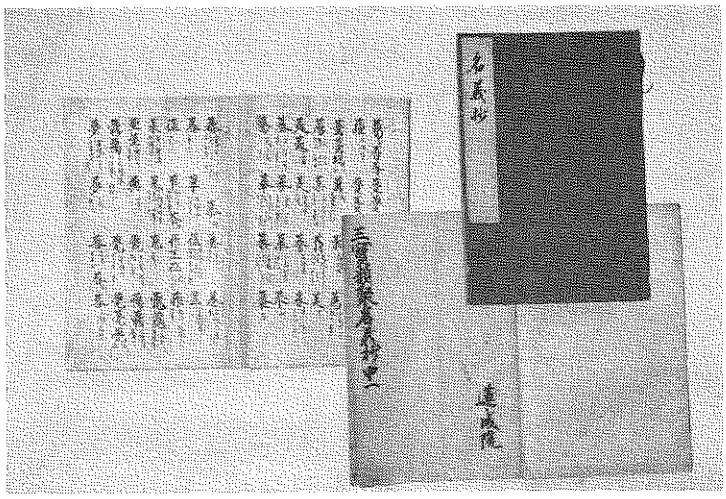
◦タテ25.6cm、ヨコ17.5cm、糸綴装

◦第1冊、篇目1枚、本文74丁

◦第2冊　もと外装紙1枚、本文36丁

◦第3冊　本文のみ、150丁

〔形状〕



表紙は有職文様を織出した茶色綸子を用い、題簽を貼り、これに「名義抄」と外題を墨書する。この筆跡は幕末に桑名藩主であった松平氏の祖松平定信（楽翁）の筆跡であろうという人があるが、断定されるにはいたっていない。

本書はもと粘葉装であったものを、糊目を離し、折目を切り離して1葉づつとし、糊代のところに約1.3cmの紙を補足して、その部分を糸綴じとしたものである。従って当初の形は16.2cmであった筈である。当初の表紙は現存せず、第2冊にもとの外包紙であったと思われる1紙を綴じ込んで保存している。これは左端に「三宝類聚名義抄中一」右下に「蓮成院」と墨書されたもので、紙質も筆跡も本文とは異なり、室町中期と判定される。

本文は、厚手の鳥の子風の白紙を料紙とし、軽く押罫を施して、各頁7行4段に墨書する。謹厳な楷書体で、漢字と訓注とは墨色を異にする個所が多いが、すべて一筆であることは疑を入れない。鎌倉末期の筆跡と認められる。朱筆による声点や符号は、第3冊に多く、第1、2冊には少い。

〔内容〕

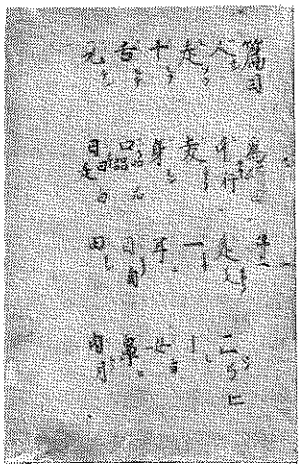
尾崎知光氏の研究（未刊国文資料　別巻2「蓮成院本類聚名義新考」昭和40年7月刊）によると、本書は「三宝類聚名義抄」というのが本来の名称で、仏・法・僧各上下2冊、合計6帖仕方てであって、原本は鎌倉中期に成立していたものと考えられている。この鎮国守国神社所蔵本（もと奈良蓮成院に所蔵されていたことから、学界では「蓮成院本」と呼び習している）は、その鎌倉末期の書写本で、第1冊は「仏」上（ただし途中に欠失あり）第2冊は「法」上の前半の一部、第3冊は「僧」上と下の大部分に相当する。即ち、本書は完本ではないが、従来、江戸時代の写本によっていた蓮成院本の基になる本であって、従来の写本には漏れていた部分も含んでいる。

〔伝来〕

第2冊に綴じ込まれている外包紙の墨書によって、「蓮成院」に伝来したことが知られるが、この蓮成院とは奈良興福寺の塔中であって、明治初年まで奈良市高畑菩提町に存在した寺院であることが、尾崎知光氏によってつきとめられている。それが、どのような経路をたどって当社の所有に帰したかは明らかでない。ただ言うまでもなく、当社は松平定綱及定信（楽翁）を祀る神社であり、その宝物類はほとんど松平家より寄進されたものであるから、この書も『集古十種』の著者である楽翁が蒐集した書物の一つではないかと思われないでもないが、その徴証がない。ただ本書を納める桐箱が「三宝類聚名義抄共三冊」と外題を書き、「大正拾年拾月廿参日　第一三六号」と貼紙があることから、大正10年に当社の宝物となったことだけは確認される。

〔解説〕

『類聚名義抄』というのは、漢和辞典であって、漢字を偏と旁によって分類し、これに字音や和訓を註記したものである。著者はわかっていない。平安時代末期に原撰本が成立し、鎌倉時代中期にそれに異体漢字を追加したり、和訓、声点などを加えて大幅な改編が行われた、と見られる。現在、原撰本系の写本は、宮内庁書陵部所蔵の一部零本が伝わるのみで、完本がなく、一般には改編本が用いられている。この系統の写本として最も著名なのは、東寺観智院旧蔵、天理図書館蔵の建長3長（1251）書写本10帖で、重要文化財に指定されている。この鎮国神社所蔵本は、観智院本とは別系統の本ながら、ほぼ同時期に成立し、内容的には観智院本より整備されていると評価される本で、従来江戸時代の写本しか知られていなかったものである。



このため、いろんな国語学者らが探し求めていたところ、昭和40年、これが写真版で刊行され、学界を驚例させたものである。

〔価値〕

『玉篇』を基として、日本で最初に作られた本格的漢和辞典の鎌倉時代書写本で、完本でないのが残念であるが、現存諸本の中では天理図書館所蔵本（重文）に次ぐ高い価値を有すること、学界周知のところである。三重県有形文化財として指定し、保護に万全を期すべきであろうと考える。

（平松令三）

2．彫刻、宇流冨志禰神社能・狂言面　名張市平尾3322　宇流冨志禰神社

（豊岡益人委員、森田利吉委員、昭58.11.26、昭59．3．14調査）

1．宇流冨志禰神社の由来

伊賀の国名張郡平尾村にある式内社で、宇奈根命、武甕槌命、経津主命、天兜屋根命、姫大神を主神とする。天武天皇3年（765)始めて祭祀神事を加え、圭田（天皇から賜わる祭祀用の田）を奉る。神護景雲元年（767)武甕槌命が常陸国鹿島を出御、伊賀国名張郡夏見郷（平尾村は夏見の旧出郷）に移られ、後奈良三笠山へ御遷座になった。

2．当社能面・狂言面の概要

もと名張藤堂家の所蔵であったが、明治のころ一括当社へ寄進された。江戸時代には藤堂家邸内や当境内興玉神社の能楽堂などで演じられたが、正確な記録などは明らかでないようである。能面のうち、黒色翁、延命冠者はその作古く優秀で保存もよい。朝倉尉は和泉椽の名作で、増女、中将は弟子目家栄満。寿満、橋姫は名張に居た安本亀八の作として知られている。本県における能面等は当社のほか、鳥羽市賀多神社、上野市天神祭供奉面、伊勢市伊勢三座関係のものなどがある。そのうち前二者は県文化財に指定されたが、この神社のものもこれらに匹敵する優れたものと思われる。

朝　倉　尉

黒　色　翁

3．能面・狂言面

（凡例）
- 番号・名称……現在当社使用のままとした。
- 寸法……単位cm　縦…頭位より顎まで　横…耳張又は面幅
- 材質……ほとんど桧材
- 作者銘……不明のときは「不詳」とした。
- 裏書……そのまま記した
- 製作年代……推定
- 作風……良作は◎　可作は○　他は普通作。なお関係事項をも付記した。
- 用途……曲名
- 備考……修理等

〈能面〉

番号	名　　称	縦	横	作　者	製作年代	裏　書
1	黒　色　翁（こくしきおきな）	16.7	14.0	不　　詳	室　町	三
42	延命冠者（えんみょうかんじゃ）	16.7	14.0	〃	〃	
2	翁（おきな）	19.0	15.5	〃	江戸末	ふ
3	朝　倉　尉（あさくらじょう）	20.0	17.2	越前和泉掾	江戸初	和泉掾
4	小　牛　尉（こうしじょう）	21.5	14.8	不　　詳	江戸中	小　尉
5	三　光　尉（さんこうじょう）	20.0	15.2	角ノ坊光盛法印	江戸初	天下一若狭守
6	〃　　〃	20.0	15.5	不　　詳	江戸後	三　光
7	悪　　尉（あくじょう）	20.0	16.6	〃	江戸中	
8	中　　尉（ちゅうじょう）	19.7	13.6	出目寿満	〃	出目寿満作中将写
9	今　　若（いまわか）	20.0	14.0	不　　詳		ヲ廿八
10	喝　　食（かつじき）	20.0	13.6	〃	江戸後	
11	平　　太（へいだ）	20.0	14.0	〃	江戸中	平太　千
12	瘦　　男（やせおとこ）	20.6	14.3	〃	江戸後	満　瘦
13	怪　　士（あやかし）	20.0	14.5	〃	江戸中	一　ト
14	増　　女（ぞうおんな）	20.9	13.4	出目栄満	江戸初	出目栄満　増女　廿二
15	〃　　〃	20.0	13.6	不　　詳	江戸中	増
16	小　　面（こおもて）	20.0	13.6	〃	〃	十二　小面
17	〃　　〃	20.0	13.6	〃	〃	二
18	深　井　女（ふかいおんな）	20.0	13.6	〃	〃	深井女
19	深　　井（ふかい）	20.0	13.6	〃	〃	井　深
20	曲　　見（しゃくみ）	21.2	14.0	〃	江戸後	ソ　近江
21	〃　　〃	19.1	14.0	〃	江戸中	
22	姥（うば）	21.2	14.0	〃	江戸前	婆
23	橋　　姫（はしひめ）	20.0	14.0	安本亀八	江戸末	熊本住安本光政　橋姫
24	顰（しかみ）	20.0	15.7	不　　詳	江戸後	寸　一
25	大　飛　出（おおとびで）	20.0	15.5	〃	江戸中	三
26	〃　　〃	20.0	15.8	〃	〃	飛　ラ
27	猿　飛　出（さるとびで）	20.0	15.2	〃	〃	猿飛天
28	般　　若（はんにゃ）	22.1	15.5	〃	〃	
29	大　癋　見（おおべしみ）	20.0	15.8	〃	〃	オ
30	〃　　〃	20.0	15.8	〃	江戸後	大癋見り
31	猩　　々（しょうじょう）	21.2	16.0	〃	〃	猩々三十二

作　　風	用　途	備　　考
美しい皺の線のしまり	翁	式三番「千歳」「白い翁」「黒色翁」
長命の徳を持った若者	鷺	
線弱く皺の形成化が著しい		
◎朝倉掾の形式		朝倉家に仕え尉面を献じた
小牛作の尉面を模したもの	高砂等	
◎3とよく似る	八島等	
三光坊の模作	〃	
尉物の後シテ用異相面		割れ目多く、補習要
寿満の得意とする優雅さ	業平等	
8によく似る	義経等	
禅宗で食事を報ずる雅児面	自然居士等	
勇ましい、中年の武将	義経等	
地獄に落ちた男の亡者の死相	阿漕等	
武将の怨霊	船弁慶	
◎若い女の面で清楚な端正さ	羽衣等	
14に似る	〃	割れ目あり
石川竜右衛門の小面に似る	〃	
16のような品のよさがない	〃	向って右の割れ目の修理要
母親の愛情の深さを示す	桜川等	
彩色黄を帯び慈母の相	百萬等	顎の部分の接着要
深井より愁いが深い	金春等	
20に似る		
	関寺小町等	
室町期夜叉の写し	金　輪	
鬼神の面	羅生門等	
鬼気せまる不気味さ	加茂等	割れ止め要
25に同じ	〃	
〃	〃	両眼とも金具をとめること
鬼女の面	安達原等	二つとも角がとれ、割れ目もひどい
全てのものを威赫する天狗の面	是界等	
29に似る	〃	
酒に酔って戯れる妖精	猩　々	左の部分を正確に接着要

〈狂言面〉

番号	名　　称	縦	横	作　者	製作年代	裏　書
32	賢　徳（けんとく）	17.9	14.0	不　詳	江戸後	
33	武　悪（ぶあく）	18.2	17.6	〃	〃	ふわく三
34	〃　〃	18.2	15.5	〃	〃	ふわく四十八
35	空　吹（そうぶき）	20.0	14.0	〃	〃	
36	不具礼（ふくれ）	20.0	10.5	〃	〃	
37	蛭　子（えびす）	19.7	16.7	〃	〃	マ
38	黒蛭子（くろえびす）	19.4	17.6	〃	〃	
39	乙（おと）	20.6	14.5	〃	〃	乙十二
40	白蔵主（はくぞうす）	19.7	13.7	〃	〃	る
41	祖　父（おおじ）	18.8	14.0	〃	〃	姥
43	猿（さる）	18.8	13.7	〃	〃	猿ほ四十
44	登　髯（のぼりひげ）	18.5	14.0	〃	〃	

作　　風	用　途	備　　考
寒風に首を縮めた時の表情	蟹山状	
能面の癋見に似る	鬼	
33に似る	〃	右の部分の割れ目止め要
ひょっとこ	蚊相撲	
ふくれっつら	おかめ	
蛭子大黒のえびす	蛭子大黒	
37に同じ	〃	右を補修要
おたふく	おかめ	
狐が化けた坊主		
男　面	腰　祈	
	うつぼ猿	
精霊や仙人の顔	楽阿弥	

（森田利吉）

3．文化財調査報告書一覧

三重県に於ける主務大臣指定史跡名勝天然記念物　第1冊　史跡　昭11．3

三重県に於ける主務大臣指定史跡名勝天然記念物　第2冊　名勝並天然記念物　昭11．5

三重県国宝調査書　昭13．9

三重県知事指定史跡名勝天然記念物　昭15．7

三重県文化財要覧　昭30．3

三重県文化財要覧（三重県文化財調査報告書　6）　昭38．10

三重県文化財要覧　3（三重県文化財調査報告書　12）　昭46．3

三重県内における木地屋の技術及び生活伝承　堀田吉雄　昭36．8

伊勢・志摩の羯鼓踊（三重県民俗資料記録　2）　昭38．3

堀田吉雄・伊藤　修・倉田正邦

伊勢湾漁撈習俗調査報告書（三重県文化財調査報告書　7）　昭41．3

堀田吉雄・水谷秀義・堀　哲・津田豊彦・鷲野正昭・倉田正邦

熊野灘沿岸漁撈習俗調査報告書（三重県文化財調査報告書　8）　昭42．3

堀田吉雄・東　一郎・堀　哲・鷲野正昭・津田豊彦

鳥羽、志摩漁撈調査報告書　昭43

堀田吉雄・上村角兵衛・堀　哲・西世古恒也・津田豊彦・倉田正邦

度会・多気山村習俗調査報告（三重県文化財調査報告書　19）　昭44．3

堀田吉雄・津田豊彦・堀　哲・鷲野正昭・倉田正邦・森田利吉・岡田照子

伊賀東部山村習俗調査報告書（三重県文化財調査報告書　11）　昭45．3

堀田吉雄・津田豊彦・上村角兵衛・堀　哲・倉田正邦・森田利吉・岡田照子

弁婁地区山村習俗調査報告書（三重県文化財調査報告書　13）　昭46．3

堀田吉雄・津田豊彦・鷲野正昭・堀　哲・上村角兵衛・岡田照子・森田利吉・東一郎

伊賀西部山村習俗調査報告書（三重県文化財調査報告　14）　昭47．3

堀田吉雄・津田豊彦・伊藤良吉・岡田照子・東一郎・鷲野正昭

南勢町・南島町山漁村習俗調査報告書（三重県文化財調査報告書　15）　昭48．3

堀田良雄・津田豊彦・鷲野正昭・上村角兵衛・伊藤良吉・堀　哲・岡田照子・森田利吉・東一郎

伊勢型紙を中心とした民俗資料緊急調査報告書（三重県文化財調査報告書　16）　昭49．3

堀田吉雄・切畑　健・森田利吉・津田豊彦・鷲野正昭・上村角兵衛・堀　哲・岡田照子・伊藤良吉・東一郎

三重県民家調査概報　　森田利吉編　　昭49．3

三重県民俗資料分布緊急調査報告書　　漁事・海運編　　昭51．3

明治・大正期三重県漁事海運資料集（昭和51年度緊急民俗資料調査報告書）　　昭52．3

寺岡貞顕・沖林一郎・山下美知子

明治十五年農商務第八号達古来船舶図書調（三重県海事史料叢書１）　　昭52．3

森田利吉・寺岡貞顕編

歴史の道調査報告書Ⅰ　―熊野街道―　　昭56．3

歴史の道調査報告書Ⅱ　―初瀬街道・和歌山街道・伊勢本街道―　　昭57．3

歴史の道調査報告書Ⅲ　―大和街道・伊勢別街道・伊賀街道―　　昭58．3

歴史の道調査報告書Ⅳ　―美濃街道・濃州道・八風道・巡見道―　　昭59．3

昭和44年度天然記念物緊急調査報告書　　給45．3

三輪勇四郎・山下善平・名越誠・角田保・倉田篤・矢頭献一・南川洋

大杉谷動植物調査報告書　―特別保護地域及びその周辺―　　矢頭献一ほか　　昭47．3

特別天然記念物カモシカ生態調査報告書　―昭和53年度―　　昭54．3

日本カモシカセンター編

特別天然記念物カモシカ生息分布調査報告書　―三重県―　　昭57．3

日本野生生物研究センター著

4．文化財講習会

第1回文化財調習会を10月6日㈭県松阪庁舎大会議室において開催した。「県内の近世社寺建築の見方」について、愛知工業大学建築学教室浅野　清教授を中心に、日本の建築の歴史、近世社寺建築調査、建築の見方等の講議を受け、県教育委員会編の「近世社寺建築図集」等の資料もあって、近世社寺建築について理解を深めることができた。

昭和58年度　三重県文化財講習会実施要項

1．目　的　　文化財保護に携わっている三重県文化財調査員及び市町村文化財保護審議会委員等を対象として、文化財の調査と保護に関する専門的知識と技能の研修を行い、もって資質の向上をはかるとともに文化財の保護と活用の強化に資する。

2．主　催　　三重県教育委員会

3．期　日　　昭和58年10月6日㈭

4．会　場　　県松阪庁舎

5．対　象　　三重県文化財調査員、市町村文化財保護審議会委員等、市町村文化財行政担当者等

6．日　程　　午前　「近世社寺建築調査の重要性」　浅野　清氏　㈱文化財保護審議会専門委員
愛知工業大学教授
㈶元興寺文化財研究所長

・遺構の時代判定

・文書、棟札等の調査の必要性

「近世社寺建築の見方・調べ方」　岡野　清氏　愛知工業大学助教授

・日本建築の歴史　　杉野　丞氏　〃　助手

・古宗の寺院・神社

・新興宗派の寺院

・細部様式にみる年代差

参加者　89名

教育事務所別参加市町村名

（北勢）木曽岬村、大安町、菰野町
多度町、東員町

（中勢）安濃町、白山町、久居市
津市、美杉村、美里村

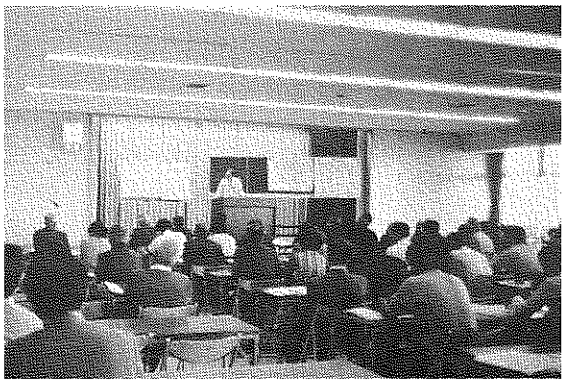
（松阪）明和町、宮川村、松阪市

（南志）南勢町、鳥羽市（調査員）

（上野）上野市、名張市、阿山町、
大山田村、島ヶ原村、青山町

（尾鷲）

（熊野）（調査員）



県内指定文化財

（昭和59年３月31日現在）

区分	国宝	建造物	絵画	彫刻	工芸品	古文書等	考古資料	歴史資料	無形文化財	民俗 有形	民俗 無形	特別史跡	史跡	特別名勝及び天然記念物	名勝	名勝及び史跡	史跡及び名勝	名勝及び天然記念物	特別天然記念物	天然記念物	天然記念物及び名勝	伝統的建造物群	計
国指定	4	14	17	60	17	32	5	2	3		3	1	27	1	2	1			2	20	1		212
県指定		26	24	67	43	45	8		1	17	30		62		9		2	1		75			410
市町村指定		72	56	125	131	125	24	4	7	46	61		143		6					59		1	860
計	4	112	98	251	191	201	37	6	11	63	94	1	234	1	17	1	2	1	2	155	1	1	1482

文化財保護事業（表紙　国指定文化財）

専修寺如来堂
（保存修理）

金剛証寺本堂
（防災施設）

安乗人形芝居
（伝承・公開）

金生水沼沢植物群落
（緊急調査）

水池土器製作遺跡
（保存修理）

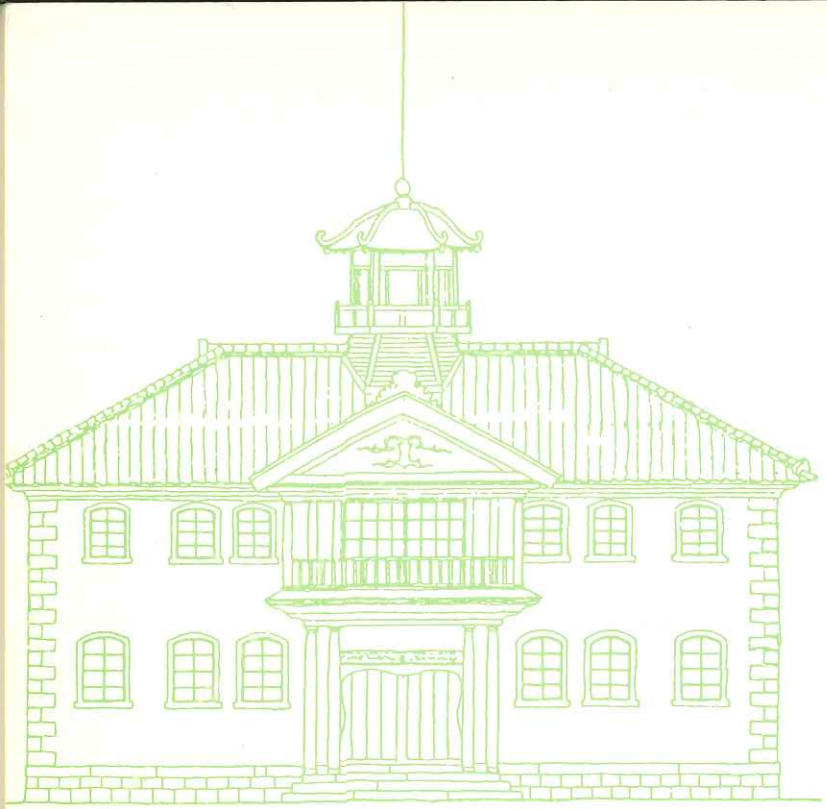
ニホンカモシカ
（保存対策）

（裏　県指定文化財）

旧小田小学校
（保存修理）

専修寺庭園安楽庵
（保存修理）

名張藤堂家邸址
（保存修理）



旧小田小学校推定復元図

安楽庵

名張藤堂邸